

目次

国際標準活動トピックス：

標準化における国際貢献と国際発信のあり方を考える	2
情報技術標準化についての私見	4

最近の国際会議から：

特別記事：JTC 1 総会での高橋顧問のスピーチ「De Facto Standards and JTC 1」	8
JTC 1 (Information Technology) 総会報告	9
SC 1 (Vocabulary) 総会報告	12
SC 6 (Telecommunications and Information Exchange Between Systems) 総会報告	13
SC 7 (Software Engineering) 総会報告	14
SC 11 (Flexible Magnetic Media for Digital Data Interchange) 総会報告	15
SC 24 (Computer Graphics and Image Processing) 総会報告	16
SC 25 (Interconnection of Information Technology Equipment) 総会報告	18
SC 26 (Microprocessor Systems) 総会報告	19
SC 28 (Office Equipment) 総会報告	20
SC 29 (Coding of Audio, Picture, Multimedia and Hypermedia Information) 総会報告	22
SC 32 (Data Management & Interchange) 総会報告	23
SC 33 (Distributed Application Services) 総会報告	24

1998年度 情報規格調査会の表彰	26
-------------------------	----

1998年9月以降 国際会議開催スケジュール	27
------------------------------	----

声のページ	28
-------------	----

1998年6月以降のISO/IEC JTC 1 関係 NP, CD, DIS, IS から：

NP 投票・結果	29
NP 承認投票 (CD/PDTR/PDAM 登録投票との併行投票)・結果	30
NP 承認投票 (CD/PDTR/PDAM 登録・承認の同時投票との併行投票)・結果	30
CD/PDTR/PDAM 登録投票 (NP 承認投票との併行投票)・結果	30
CD/PDTR/PDAM 登録・承認の同時投票 (NP 承認投票との併行投票)・結果	31
CD/PDTR/PDAM 登録投票・結果	31
CD/PDTR/PDAM 登録・承認の同時投票・結果	31
CD/PDTR/PDAM 承認投票および PDISP レビュー・結果	32
CD/PDAM 登録・FCD/FPDAM 承認の同時投票・結果	35
FCD/FPDISP/FPDAM 承認投票・結果	35
DIS/DISP/DTR/DAM および FDIS/FDISP/FDAM の承認投票・結果	39
IS/ISP/TR 出版	42

編集後記	44
------------	----

< 国際標準活動トピックス >

標準化における国際貢献と国際発信のあり方を考える

情報処理学会 情報規格調査会
会長 棟上 昭男（情報処理振興事業協会）

先日行われた第13回の規格総会で、大先輩の名誉会長および顧問から、

(1) 最近の情報規格調査会の活動は国際審議案件の対応に終始し、日本発といわれるファストトラックにしても、他の団体の作成したJISを仲立ちするだけになっているのは問題である。そもそもJISを国費を使って作成するというのも、けしからん話ではないか、とか

(2) 最近のニューズレターで、あるSCの紹介記事を読んだが、SC設立後の話ばかりで、それ以前の産みの苦しみの段階で、先輩たちがいかに苦労したか、根回し段階の国際交渉の経緯等には少しも触れられていない。国際標準化活動では、このような段階の活動こそ重要なのに、それを無視するというのは、国際標準化に関して本会がきちんとした認識を持っていない証拠ではないか、

というような主旨のお小言を頂戴した。これらの問題提起には、国家規格の作成に国の資金を使うことが悪いことなのかどうかなどの点も含めて、内容的にいささか問題のあるところもあるし、事実誤認と思われる部分もあるが、我々の努力の至らなさも含めて、謙虚に反省をしなければならぬ点も多いだろう。これを機会に、学会の独立事業部門として存在する当調査会が、国際標準化に関連して今後どのようなことを考えてゆくべきなのかについても、大いに議論を進めてゆく必要があると思う。

JTC1における国際標準化活動に関する国際貢献のあり方には、2つの側面がある。一つは規格の作成そのものに関する貢献であり、もう一つは規格作成のための環境とか枠組みの設定・改良、あるいは運営に関する貢献である。このうち後者に関しては、幹事国業務のようなものを除けば、個別の貢献は本質的に外部からは見え難い。しかし最近のJTC1のリエンジニアリングや、それに付随するさまざまな作

業に関する我々の貢献は決して小さいものではなかったし、やや手前味噌に聞こえるかも知れないが、国

際的にもその点は認識されているものと思われる。

問題は前者の規格作成そのものに関する貢献だろう。我が国発の規格というような形で、外部から十分明瞭に見える形の国際規格が、最近の記録媒体関係のJISをベースにしたファストトラック以外にはほとんどないということが、冒頭のお小言の遠因だろうと思うのは僻み過ぎだろうか。国費を投じたJISをベースにするのか、あるいは仮にIPSI規格というものができたとして、これをベースに提案するのは別にして、ブランド名を残せるようにすることのみが、国際規格作りにおける唯一の国際貢献のありようだとは思えない。ファストトラックの場合は別にして、通常手続きで作られる国際規格は、国際的な合意をベースにするものであり、その多くは個別の企業とか個人のアイデアや技術を種にするものであるにもかかわらず、最終的な成果物からは、そのような寄与や背景に関する記述は消されてしまうのが習わしである。これはこれで問題かも知れないが、このような直接的には見えない形の我が国からの寄与は、SC7やSC29関係をはじめとして、現在でもそれほど少なくないのではないと思われるし、この点に関する関係者の努力は大いに賞賛されるべきレベルにあると言えるだろう。

規格の国際発信を考える場合、国内で日本独自の案を作って国際の場に提案するというやり方をとっても、なかなかうまくゆきそうにないことは、かつてのSC13におけるチャンネルインターフェース標準の提案や、著者も関与したOSインターフェースの標準化、SSIの例からも明らかである。極端に言えば我々のこれまでの経験は、反面教師としてしか役立っていない。これには2つの問題点が考えられる。一つは日本という時として成上がりに見られがちな国からの提案に対する警戒感であり、もう一つはより本質的なことであるが、利害に結び付かない、中立的

ではあるが、ある意味では毒にも薬にもならないグループが、スクラッチから規格という文書だけを作って、世の中に標準として定着させようとしても無理があるということである。

実際、参照モデルとか管理のガイドラインのような特別な場合を除いて、このような形で現われて、成功だと胸を張れるようになったケースはあまり無い。上述の日本提案の場合は、規格として成立することなく終わってしまったのだが、OSI や GKS のようにかなりのエネルギーを注入して国際規格化に成功した場合でも、実際の利用面では苦戦を強いられているのが現状である。逆に言えば、製品に関連する国際規格とは、なんらかのインプリメンテーションを伴う、デファクト的な技術をベースにするもの以外は、なかなか成功できないということである。SSI の場合でも、参考にしてきた CTIRON インタフェースを、参考の位置付けではなくもっと直接的に利用して、TRON 自体の国際標準化をその目的にしてしまった方が、国際標準化としては成功の可能性もあり、世の中に与えるインパクトも大きかったのではないかと反省されるのである。

大分言い訳がましい、愚痴めいた議論になってしまったが、このような分析と反省を踏まえながら、当調査会を中心とする情報技術の国際標準化において、日本からの発信の度合いをより高めるとともに、その状況が外部の人にももっと伝わるようにするにはどうすればよいのか、今までももまして真剣に考えてゆく必要があると思われる。先にも述べたように、実際に稼働する製品やシステムに直接関係する標準は、多くの利用者によって、実際に利用可能で役立つものであることが具体的に実証されている技術、あるいは少なくとも実証されつつある技術をベースにするものであることが、これまでの経験から得られた事実上の必要条件である。インターネットの標準化が、複数のレファレンスインプリメンテーションを前提としてきたということが、その成功の一つの鍵であったことは疑いない。日本は JTC1 のリエンジニアリングに際して、JTC1 もそのような考え方を導入すべきであると主張したのだが、残念ながらこれは受入れられなかった。しかしながら、複雑で評価の困難な情報技術に関連する技術開発では、多くの人、多数の目を巻き込んだある種の社会プロセスは必須であり、情報技術の標準化もそのような性格を抜きにしては考えることができないことは明らかである [1]。

学会に関わる標準化活動に関しては、IEEE の活動がよく引合いに出されるが、これにしてもその成功のもっとも重要な鍵は、標準化のもとになる技術の種と、

情報技術標準化についての私見

それを標準化を通して広めたいという企業や、場合によっては個人の情熱であって、仕掛けや座敷が用意されれば十分であるということは決してない。当調査会も学会の傘下にある利点を活かして、関連研究会との連携を深めるなど、日本の技術を標準化を通して発信してゆくための、オープンな議論を活発にする努力が必要だろう。これまでの日本は、企業風土の面でも、学界の風土の面でも、このような活動にはどちらかという後ろ向きの面が強かった。しかしこのような風土のために、我が国の情報産業が世界的なレベルではまったく主導権を取れず、下請的な地位に甘んじなければならぬ状況になっていることは広く認識されつつある。優れた技術シーズをオープンな議論の場に持ち出し、標準として皆で育ててゆくための機運を盛り上げるとともに、そのためのリソースに関しても、より効率良く協力してゆくために、当調査会の場をこれまで以上に活用できるよう、更に工夫をすることが必要だろう。この問題に関して、先輩諸兄をはじめとする皆さんからの提案やコメントと、それらに関する活発な討論を期待したい。

参考文献

[1] 棟上 昭男：

「社会的プログラムリファインメント」再考
情報処理, Vol.39, No.7, pp.672-673 (1998).

本記事は、ITSCJホームページにも掲載しています。

同ホームページに「ITSCJの広場」（下記 URL 参照）を設けました。本記事についてのご提案及びITSCJの活動に関するご意見等をお寄せください。今後の当調査会活動に役立てたいと思います。

また、お寄せいただいたご意見や討論は、状況に応じてニュースレター等に掲載致します。

<http://www.itscj.ipsj.or.jp/jp/plaza.html>

情報処理学会 情報規格調査会
顧問 高橋 茂（東京工科大学学長）

1. はじめに

まず棟上会長の寄書の冒頭に「名誉会長および顧問から」とあって、(1)、(2)とあるが、顧問である筆者の発言が(1)であり、(2)は和田名誉会長の発言なので、取り違えないようお願いしたい。従ってこの場で筆者が論じたいのは(1)の関連である。

先日の総会の席で筆者が指摘したかったのは、標準化についての誤った通産行政であった。ところが、その被害者である筈の情報規格調査会が、少なくとも棟上会長のその席での発言によれば、それを効率の良い方法だとして認し、迎合しているかのように見えたのはやや意外であった。その席では時間が限られていて言い足りないことが多かったし、言葉のやり取りでは不正確になり易いので、この公開討論の場が設けられ、普段考えていることを文字によって存分に披瀝できる機会が与えられたことは大変嬉しいことである。

多少長くなるかもしれないが、討論の種にして頂ければ幸いである。

2. DVDのJISについて

好むと好まざるとにかかわらず、我が国には日本工業標準(JIS)というものがあって、形式上は日本工業標準調査会(JISC)という委員会がこれを制定することになっているが、委員はすべて通産省のお手盛りであり、その実態は通産省の一部門のようなものである。JISの原案作成業務は通産省が天下り先として設けた多数の外郭団体にバラ撒かれている。情報関係のJISも同様で、一部例外的なものだけが外郭団体ではない情報規格調査会に委託されている。

我が国で開発されたデジタルビデオディスク(DVD)の規格を、国際標準として提案することを通産省が多少でも考えていたとすれば、その国際的な審議はISO/IEC JTC 1/SC 23(Optical Disk Cartridge)で行われることは分かっていた筈であるから、当然JISの原案作成はSC 23対応の国内委員会を持つ情報規格調査会に委託すべきであった。そんなことはまったく考えていなかった、あるいはSC 23のことは知らなかったとすれば、そういう国際的センスのない人たちが、JISの制定や国際標準への対応の権限を握っているということが問題である。

とにかく実際にはDVDのJIS原案の作成は光産業技術振興協会(OITDA)に委託され、情報規格調査会は出来上がったJISをJTC 1のファストトラック手順に乗せる手続きをしたに過ぎない。棟上会長によれば、情報技術関連の標準化のすべてを情報規格調査会だけでは消化し切れないから、外部の力を活用するのだとのことであるが、OITDAでDVDの審議をした委員とSC 23国内委員会委員とはかなり重複している筈であり、情報規格調査会の委員が別の場所で仕事をしただけのことで、外部の力の活用にはなっていない。しか

も委員会の構成が同一とは考えられないので、審議は結局二度手間になり、時間、費用、人的資源などが明らかに無駄になっている。

筆者の発言が情報規格調査会の名が表に出ないことにことについての非難のようにも捉えられているが、そういうことを言ったのではなくて、情報規格調査会にとって技術的にやり甲斐のある仕事にして欲しい、それにはせめてJIS原案の作成から引き受けるべきではないか、ということである。

和田名誉会長が本会の前身である規格委員会の委員長だった時代から、通産省が次々に外郭団体を設け、情報技術標準化の仕事をバラ撒くので、漢字のJISを始め、いろいろと問題を起している。もともと情報技術標準化に寄与できる技術者の数は限られていて、通産省が外郭団体を作ったからといってその数が増える訳ではないから、バラ撒けばバラ撒くだけ、効率が悪くなることは初めから分かっていることである。

3. 標準化は政府の仕事なのか？ 国家規格とは？

そもそも基本的には、標準化というものを、我が国では政府機関が管掌しているところに問題がある。総会の席では基本問題から説き起こす時間がなかったから、端的に「JISを国費で作成するのはけしからん。」という表現になったが、筆者が言いたかったのは、標準化活動は元来メーカー、ユーザ、学識経験者などが手弁当で行うべきもので、そのようなボランティア活動に対して、政府が若干の助成金を出すことは結構なことだが、決して口をだすべきではないということである。技術的に無知な行政官が時代遅れの法律を盾に、口を出すどころか、担当団体まで決定していることは嘆かわしい限りである。

JISをその発生源で大別すると、(a)DVDの規格のように我が国で開発されたものと、(b)まず国際標準になったものとの2種類になる。(a)をさらに国際標準にしようとする場合の問題は、前述のDVDの例で明らかであるが、(b)については件数も多くその問題はさらに大きい。

後述するように、情報技術の国際標準化の作業はISO/IEC JTC 1で行われており、これに対応する我が国の実務は情報規格調査会が担当している。JTC 1には多数のSC(Subcommittee)やWG(Working Group)があり、情報規格調査会にも対応する専門委員会や作業グループがある。従って(b)のJIS化は情報規格調査会で担当する方が、もともと自分たちが国際の場で審議したものであるから、ほとんど片手間で済むという利点がある。JIS化を機械的な翻訳だと考えれば、つまらない仕事だということになるが、実際はそうではない。審議の過程での日本語化により、バグの発見がずっと容易になるからである。

ところが現状では通産省が(b)の大部分をお気に入りの外郭団体である日本規格協会に設置した情報技術標準化開発センター(INSTAC)に委託している。INSTACは情報規格調査会の専門委員会や作業グループに相当する委員会を設けて JIS 化作業を行っているが、エキスパートの数には限りがあるから、殆ど同じ顔ぶれの委員会をわざわざ場所を変えて開催するだけのことで、時間、費用、人的資源が無駄になることは明らかである。

棟上会長のコメントに「国家規格の作成に国の資金を使うことが悪いことなのかどうか...」とあるが、「国家規格」とは本来 "International Standard" に対応する "National Standard" であって、少なくとも欧米先進諸国では "National Standard" は政府制定の規格ではない。米国の ANSI を始め先進国の多くの標準化団体は経費を企業メンバーの会費、規格文書の売り上げなどによって賄っており、政府からは助成金さえもらっていない。BSI (英国規格協会) は多少もらっているようであるが、筆者が同協会の Alan Stevens 氏から聞いたところでは、その割合を自ら制限している、政府に口を出させないようにしているとのことであった。

"National Standard" の作成はあくまで受益者によるボランティアな活動として行うべきものであって、それに国費を使うことは間違っている。「いや日本では "National Standard" は政府の制定だから当然だ」という意見があると思われるが、政府が制定していること自体が間違っていて、是正が必要だというのが筆者の考えである。

4. 情報技術の国際標準化への対応 [1]

情報技術の国際的な標準化活動は、1961 年 ISO が TC 97 を、IEC が TC 53 を設置したときに始まった。しかし ISO、IEC でバラバラに活動しては無駄が多いということで、1987 年これを ISO/IEC JTC 1 に統一した。蛇足かもしれないが、国際規格でさえ効率を考えて、このように 1 個所に纏めているのに、“National” レベルの規格作成作業を何箇所にもバラ撒くとはなにごとかと言いたい。

ISO も IEC もともに非政府間機構(Non-governmental Organization)であり、ITU のように政府間の条約によるものではないが、それぞれ国際的な合意の下に標準化を進めるために、世界の国々からの参加を求めている。各国を代表する参加団体は一つに限られていて、これを ISO では Member Body、IEC では National Committee、これら双方の傘下にある JTC 1 では NB(National Body)と呼んでいる。今はどうなっているか知らないが、筆者が情報規格調査会長をしていた頃、政府機関が NB になっているのは大抵共産国が発展途上国であった。欧米の先進国にはその例を見なかったし、現在でもそうであろう。我が国は JISC (実体は通産省) が NB になっているのだから、まさに発

展途上国並みである。

1961 年情報技術の国際的な標準化活動が始まった頃、JISC はすでにあり、ISO、IEC の双方に加盟していたが、情報技術に関してはその実務を委託する団体がなく、我が国はこの分野での国際的な動きには事実上無関係であった。当時電気試験所電子部長で情報処理学会常務理事であった和田名誉会長が、この状況を憂慮して通産省と交渉の結果、1960 年に発足したばかりの情報処理学会でその実務を引き受けることになった。これが情報規格調査会の源流である。

政府管掌の弊害はこの面でも現れている。通産省は、実務は委託しているものの、「本来は自分の権限だ」と主張したいのか、あるいは形式を尊ぶためか、なにかと屋上屋を作るので、役にも立たないことに時間が空費される。その上、情報規格調査会は通産省の外郭団体ではなく、天下りの受入先でもないから、可愛気もなく、通産省は何かにつけてその業務範囲を狭めようとする。

1985 年 7 月 日本規格協会に情報技術のためにだけわざわざ INSTAC を新設して、国際標準 JIS 化の作業の大部分を移したのはその一環であった。その後、自分で勝手にバラ撒いている業務を大同団結するという美名のもとに、もう一つ外郭団体を作ってそこに情報規格調査会を吸収しようという試みもあったが、これは情報規格調査会の抵抗でうまく行かなかった。滑稽だったのは INSTAC がなにか国際的なことをしたがつて、米国の NB である ANSI と日本規格協会との連絡会議のようなものを再度にわたって開催したことである。もちろん何の成果もなかった。

5. 国際標準化の世界では発展途上国並みの我が国 [1]

政府機関が ISO や IEC に加盟している国は、発展途上国並みだと思われるも仕方がない。このような状況に我が国が甘んじていなければならないのは何故か。

IEC が発足したのは 1906 年であった。我が国からは電気学会が National Committee として、早くも 1910 年に参加したが、第 2 次大戦で中断した。1953 年に漸く再加入が許されたが、1949 年に工業標準化法が成立していたので、電気学会ではなく JISC が National Committee になった。一方 ISO は戦後 1947 年に発足したが、1952 年に JISC が Member Body になった。1952-3 年といえば、我が国は産業界が戦後の疲弊からまだ立ち直っていないときで、まさに発展途上国であったから、このとき JISC が産業界の肩代わりをしたことは止むを得なかったと思われる。

しかし我が国が経済大国になってからも、発展途上国と同様に官庁が加盟していることは許されないのではないか。行財政改革や規制緩和が叫ばれているときに、なぜこれを産業界に戻そうとしないのか。それは

官僚が一度手にした権限を自ら放棄することは絶対にないからである。しかも国際標準化などという票に繋がらないことは政治家の目にとまり難いし、仮にとまったとしても、理解できないから、官僚に必要だと説明されればそのままになってしまうに違いない。一方産業界の方も通産省が嫌がることは言い出したがらないし、近視眼的には ISO や IEC の国際分担金を政府が税金から払ってくれるならその方が得だと考えるに相違ない。これを直すには恥ずべきことではあるが、また外圧以外にはないのではないかとさえ思われる。

6. 情報技術標準化での国際的な寄与

国際的な寄与には(A)標準案そのものへの寄与と、(B)JTC 1 の運営に関わるものがあることは、棟上会長の指摘のとおりである。初期には(A)、(B)どちらについても日本の寄与は殆どなく、国際会議に出席しては文書を集めて持ち帰るだけの存在であった。

(A)の最初は1968年9月のチャンネルインタフェースの提案[1]であった。7年間にわたる努力にもかかわらず不成功に終わったが、日本もかなりのものだというを国際標準化の世界に示すことにはなった。

(B)は1979年6月 SC 16/WG 4 のコンビーナに苗村憲司氏(当時電電公社、現慶大教授)が任命されたのが最初で、その後の和田名誉会長の TC 97 副議長就任、SC 23 の幹事国引き受けなどを契機に、先進国並みの寄与ができるまでになった。1987年筆者は IEC と ISO に分かれていた情報技術標準化の業務を調整する委員会に出席し、思い切ってこれらを統合しようという提案を行った。この提案は ISO の Eicher 事務総長が“tsunami”と呼んだほどの大きなインパクトを与え、JTC 1 が誕生する切っ掛けとなった[2]。

従って問題は(A)である。日本発のシステム標準の提案は成功しない。という説もある。そうかもしれないが、筆者は自身に関係したチャンネルインタフェースと SSI (Systems Software Interface) の失敗の経験から、**我が国で開発した事実上の標準(De Facto Standard)で、オープン化によって、海外のユーザやメーカーにも役に立つもの**でなければ成功しないと考えるようになった。これは棟上会長の意見とほとんど一致していると思われる。

この基準に照らしてみれば、チャンネルインタフェースは日本で開発したものではあるが、大型プロジェクトと電電公社の DIPS にしか採用されていなかったから、事実上の標準ではなかった。またその仕様は IBM のチャンネルインタフェースがベースで、それに電気試験所と富士通の特許を加えて改良(あるいは改悪であったかもしれない)したものに過ぎないから、オープン化によって海外のユーザやメーカーの役に立つということは考えられない。

SSI は応用プログラムのプラットフォームを標準

化しようというもので、筆者と棟上会長が推進したものであるが、事実上の標準の提案ではなく、国際会議の場で標準を開発しようと言う提案だった[3]。NTT から具体案として CTRON の提示があったが、チャンネルインタフェースでの反省から、いきなり具体案を出すやと却って各国の反撥を買うのではないかと懼れたことと、当時は OSI が全盛で、標準は委員会でコンセンサスを取りながら「開発」するものだという、今になって考えれば誤った概念に取り付かれていたために、CTRON は単に参考として掲げるのにとどめた。

棟上会長の反省では、参考としてではなく、CTRON を事実上の標準として提案していたら、あるいは成功していたのではないかという。確かにある程度先に進むことはできたかもしれないが、CTRON は NTT のいわば特殊な仕様であり、オープン化によって、POSIX や当時の MS-DOS のように役に立つとは思えないから、結局はこれら事実上の標準の敵ではなく、不成功に終わったと思われる。

7. 日本のメーカーの体質

事実上の標準が前提となれば、ハードウェアであろうと、ソフトウェアであろうと、まず新しい製品が開発されなければならない。システム標準の提案が成功しないと言うことは、新規性のあるシステム製品が我が国にはないということに他ならない。

日本のコンピュータ産業は米国より 10 年遅れて発足し、多かれ少なかれ、米国のメーカーを手本にしてきた。グローシュの法則が成り立っていた大型機の時代に、アーキテクチャもオペレーティングシステムも海外依存であったことは、10 年の遅れを取り戻し、ビジネスとして成功させるにはやむを得なかったものと思われる。

しかしマイクロプロセッサが登場し、ダウンサイジングやオープン化が進んでからも、何一つ新規性のあるシステム製品が現れていない。筆者はその原因が日本のコンピュータメーカーの体質にあるのではないかと考えている。大型機の時代にシステム仕様については海外のものに従うことに慣らされてしまった上に、電電公社や通産省に飼育慣らされて、仕様が海外から与えられるか、DIPS のような開発発注、通産省の第五世代のような研究発注、あるいは助成金がないと、リスクの多い新規のシステムには取り組まないという体質になってしまったのではなからうか。

筆者が SSI を推進している時にもメーカーのこの体質が明瞭に観察された。SSI が確立されれば利用するかもしれないが、自分たちが委員会で白紙からそれを開発することはしたくないというのが基本的な態度であった。一方では NTT の CTRON が進行中であったが、これは発注に繋がるため、十分なメーカーの協力が得られたようである。

8. それではどうすれば良いか？

メーカーの体質改善をここで一般的に論ずるのは当を得ていないから、標準化の面でどうすればそれに貢献できるかと言うことに的を絞りたい。といっても標準化は新製品開発の極めて重要な側面であり、多くの場合新製品開発そのものであるから、この面での改善が行われれば、一挙にメーカーの体質改善に繋がる可能性もある。

我が国のメーカーは「標準は天から降ってくるもの」と考えているようである。JISを政府が制定し、国際標準化機構への加盟者も政府機関であってみれば、そう考えるのがむしろ当然で、このままでは日本発の国際標準などは到底無理である。我が国の標準化もそろそろ開発途上国並みの政府制定から、本来のボランティアな活動に戻すべきではなからうか。「戻す」と言ったのは、戦前は工業標準化法がなく、例えば電気関係の標準は電気学会傘下の日本電気工芸調査会が制定し、IECにもこの調査会が参加していたからである。

棟上会長が米国IEEEでの標準化活動成功の鍵は、そのもとになる技術の種(事実上の標準になるような新規の製品)と、それを標準化を通して広めたいという企業や、個人の情熱であると述べているが、筆者もまったくその通りだと思う。現在の我が国のように、政府が主導し、メーカーがそれにもたれては、その何れも出てこない。

IEEEの標準化活動の特徴は、あくまで会員個人のボランティアな参加がベースになっていることと、標準化に関心がある会員は誰でも参加できるオープンな組織になっていることである。従って参加者も多く、例えば802委員会(Local and Metropolitan Area Network Standards)の場合には、年に3回ある1週間の総会にはそれぞれ400-500名もの出席がある。\$300程度の会議参加費を取り、費用はすべて参加費で賄っている。出席の費用はすべて自前(勤務先の負担)であり、委員会の役員にも1週間当たり\$200の雑費が認められるだけで、交通費やホテル代のIEEEからの支給はまったくない。

IEEEの雑誌ComputerにStandardsというコラムがあり、ミシガン州立大学のCharles Severance教授が担当しているが、その記事[4]を読むとIEEEでのボランティア活動がどのようなものかがよく分かる。彼によれば出席者にはメーカーの最先端技術者が多く、彼等が会社の利害よりはむしろ技術的なメリットに基づいて熱心に論議しているのを聞いていると、最新の技術に触れる機会に乏しい大学教員などは大いに啓蒙される。メーカーの技術者も他社の技術者とフランクに論議することによって、得るところが大きいよう

である。ミシガン州立大学は彼がIEEEの会議に出席する費用として年間\$8,000を支出しているが、教員である彼のポテンシャルが高まることで、十分引き合う筈だと言う。

この点に関する筆者の反省は、筆者が情報規格調査会長だった時代に、会議の参加者が余りにも多いことや、会議の参加費をとることに強烈に反対したことがあったが、ボランティアの建前からすれば、なにも反対すべきことではなかったということである。IEEEの状況をもっと良く調べて参考にすべきであった。

情報規格調査会と比べてみると、IEEEが政府とまったく無関係である点がまず大きく異なるが、それ以外にも異なる点が多い。投票のやり方など参考にすべきことが多いが、例えば情報規格調査会をオープンな組織にすれば、それで現状が改善されるかという、まず産業界に標準の種ができなければ話しにならない。製品の仕様や規格は外国のメーカーや発注元から与えられるもの、標準規格は通産省が制定するものだというメーカーの先入観を払拭しないと、事実上の標準になるような新しいシステム製品が開発される筈がない。

この現状を改善するにはまず政府が標準化に口を出すことを止めてもらい、委託金のようなものも徐々に当てにしないようにして、その間に本当にボランティアな標準化団体を確立すべきであろう。コンピュータ業界には通産省が作った日本電子工業振興協会の他には業界団体がないから、成功しているIEEEに倣って、情報処理学会情報規格調査会をベースにするのが最も实际的ではなからうか。なお我が国ではアカデミアがその所属者の標準化活動を支持する慣習がないが、これも改革すべきことの一つである。

参考文献

- [1] 情報処理学会編：情報処理学会30年の歩み、第2編“規格活動の軌跡”情報処理学会(1990)
- [2] 高橋 茂：“IEC・ISO/ITMG会議に出席して、標準化ジャーナル, Vol.17, No.5, pp.64-68(May, 1987)
- [3] Sigeru Takahashi and Akio Tojo：“The SSI Story - What it is, and how it was stalled and eliminated in the International Standardization arena,” Computer Standards & Interfaces Vol. 15 pp. 523-538 (1993)
- [4] Charles Severance：“Grab the Chance to Work on the Leading Edge,” Computer Vol.31, No.5, p.99 (May 1998)

< 最近の国際会議から >

特別記事：JTC 1 総会での高橋顧問のスピーチ

< De Facto Standards and JTC 1 >

(Speech given at the reception party of 12th JTC 1 Plenary Meeting at Sendai, July 3, 1998)

Dr. Sigeru Takahashi, Adviser, Information Technology Standards Commission of Japan (President, Tokyo Engineering University)

Mr. Chairman, Distinguished Delegates, Ladies and Gentlemen:

It is my great pleasure to be here to speak to you this evening, because JTC 1 Meeting is one of my favorite nostalgic occasions. The last JTC 1 Plenary Meeting I attended was the one held in Berlin in March, 1993. Since then five years have passed, and I still miss the excitement and pleasure of being in JTC 1 Plenary Meeting.

ITSCJ, Information Technology Standards Commission of Japan, has kindly invited Dr. Wada and me to this party. Here, let me tell you a short history of us relative to JTC 1. Dr. Wada had been the head of Japanese delegation for ISO/TC 97 since its 1965 New York Plenary Meeting until he was made one of its Vice Presidents in 1984 at the Stockholm Plenary Meeting. His Vice Presidency was held until 1991 when JTC 1 decided to discontinue the position of Vice Presidents at its Madrid Plenary Meeting. I succeeded Dr. Wada as the head of Japanese delegation in 1984, and held that position for ten years until 1994 when Dr. Akio Tojo succeeded me.

The Japanese Commission asked me also to welcome you to Sendai and to this party, but I am feeling a little awkward to do so, because I am not in the position to represent the hosting Japanese Commission. Dr. Wada and I are also the ones to be welcomed rather than to welcome you. However, all the same, I am delighted to see all of you here at this party. I recognize several familiar faces I have known

from the time of Plenary Meeting in good old days.

I also notice that there have been a lot of changes in JTC 1. During my time with JTC 1, I used to attack SC 21 at

every possible opportunity. I was trying to decrease its size by squeezing its scope which was too broad as well as too ambiguous. I even tried to break it up into two or three pieces. Those efforts were all in vain, and I was feeling like being a mouse scratching an elephant. However, whatever the reason is, the elephant is now gone.

At the same time, Japan was proposing to establish an SC for standardizing an interface which we named "Systems Software Interface", an application platform to be commonly used for computers of different architectures. This effort continued for several years including three year study period in the Technical Study Group 1, but the proposal was finally rejected by the 1991 Plenary Meeting in Madrid. Only reminder of our efforts on the Systems Software Interface is the title of SC 22, which still reads "Programming Languages, Their Environments and Systems Software Interfaces".

Being reminded of these incidents, now I personally feel, in the light of popular de facto standards such as Windows, Java, and LINUX, that our failure on Systems Software Interface was inevitable sooner or later. Generally speaking, it seems to me totally unproductive and extremely difficult to develop standards in JTC 1 in competition with de facto standards, even though they are not as monstrous as the OSI standards. I sincerely hope that JTC 1 will find its most appropriate role in the field of international Standardization in harmonization with flourishing de facto standards, and its role will become highly respected, since I regard JTC 1 as one of my Alma Maters.

Ladies and Gentlemen, thank you for your kind attention.

JTC 1 (Information Technology / 情報技術) 総会報告 (第 12 回)

情報規格調査会

理事 成田 博和 (富士通)

E-mail : hiro@rp.open.cs.fujitsu.co.jp

1. 開催場所: 仙台 (日本)

2. 開催期間: 1998 年 6 月 2 日 ~ 5 日

3. 参加国 / 出席者数: 18 カ国 / 82 名

豪(1), ブラジル(2), 加(4), 中国(3), デンマーク(4), フィンランド(0), 仏(5), 独(3), アイルランド(1), 伊(1), 日(11: 棟上(IPA), 石崎(慶大), 橋爪(工技院), 小野(東芝), 近藤(日立), 斎藤(日本アイ・ピー・エム), 成田(富士通), 東田(NTT), 藤崎(NEC), 宮西(三菱電機), 吉田(三菱電機)), 韓国(2), オランダ(1), ノルウェー(1), スウェーデン(1), スイス(1), 英(5), 米(8), GEN/ISSS(1), ECMA(1), ITU-T(1), CAI-R(1), GII-R(1), JTC 1/WG 4(1), JTC 1/WG 5(1), RA-R(1), SC 2(芝野(東京国際大), 木村(IPSJ/ITSCJ)), SC 6(2), SC 7(1), SC 22(1), SC 23(戸島(NTT IT)), SC 24(1), SC 25(2), SC 26(1), SC 27(1), SC 28(1), SC 29(安田(東大)), SC 31(1), ITTF(Keith Brannon), IEC(東迎), JTC 1 Chairman(Thomas Frost), JTC 1 Secretary(Lisa Rajchel)(尚, フィンランドは出席しなかったが, スウェーデン代表が代理を務めた.)

4. 議事内容

今回の JTC 1 総会の主要な議題は, TD (Technical Directions)に関わる事項, プロシジャ (Directives)に関わる事項, 電子化(IT Strategies)に関わる事項の三つに大別できる。尚, 今回の総会で新たな JTC 1 議長に Tomas Frost(米国; AT&T)が指名された。

総会の主なアウトプットは以下のとおり。

4.1 TD (Technical Direction) 関連

(1) TD - Document Description Languages (関連決議 19, 20)

- 1) JTC 1 直轄の WG として運営されていた JTC 1/WG 4 を廃止し, 新 SC (SC 34) として昇格させることとした。
- 2) 新 SC 34 のタイトルとスコープは日本の寄書案をベースに承認された。
- 3) 今後, 幹事国の募集が行われる。尚, 当面は WG 4 のコンビーナが JTC 1 事務局のサポートの下に事務局を務める。1999 年 1 月のブラジル総会までに幹事国の引き受カ国が決まらない場合には, この SC は解散となる。

(注) SC 34 の幹事国は米国が引き受けると想定される。

(2) TD - Cultural and Linguistic Adaptability and User Interfaces の設置 (関連決議 22, 23)

- 1) 従来の TD である "Coded Character Sets" と "User

Interface" を掲記の新 TD で置き換えることを決定した。この新 TD の運営モードは次回ブラジル総会まで未定。

- 2) 新 TD には, SC 2, SC 22/WG 20, JTC 1/WG 5 (新 SC 35) が所属する。
- 3) JTC 1/WG 5 は廃止し, WG 5 のタイトルとスコープを引き継いだ SC 35 を設立する。
- 4) オタワで開催された Cultural Adaptability Workshop の積み残し作業の完結と新 TD の運営モードを決定するために, この新 TD のアドホック会議を実施することが承認された。このアドホック会議の準備会とアドホック会議は JTC 1 議長が議長を務める。

(注) この決議 (No.22) には, 米国, アイルランドの二カ国が反対し, フィンランド, スウェーデン, スイス, 中国の四カ国が棄権した。Cultural Adaptability に関する活動の調整のために, JTC 1 Technical Advisory Group を作るというフランスの提案は, プロシジャアドホック会議では却下されたが, SC 35 が設立できたという点で, フランスの希望は満たされたと言える。(JTC 1 TAG の設立が却下されたのは, 本件は TMB マターであるとの ITTF のコメント と過去の JTC 1 Advisory Group の失敗の経験を踏まえたもの。)

- 5) 今後, SC 35 の幹事国の募集が行われる。尚, 当面は WG 5 のコンビーナが JTC 1 事務局のサポートの下に事務局を務める。1999 年 1 月のブラジル総会までに幹事国の引き受カ国が決まらない場合には, SC 35 は解散となる。

(3) TD - Distributed Application Services の廃止 (関連決議 46, 47)

- 1) SC 33 の幹事国の引き受け手が見つからなかったため, オタワ総会で設立された SC 33 は 7 月に開催される次回 SC 33 Brisbane 会議とそのアウトプットドキュメント (SC 33 の各プロジェクトの移管先, キャンセル等の勧告) の JTC 1 への提出 (98 年 7 月未デッドライン) をもって解散することとした。所属する唯一の SC が解散するため, TD - Distributed Application Services は廃止される。
- 2) 1998 年に final texts の ITU-T での承認が予定されている ITU-T との共同作業に関わるプロジェクトについては, 継続し, ISO/IEC と ITU-T との共同ドキュメントとして出版する。
- 3) 既存の SC 33 プロジェクトについては SC 33 の解散をもって次の組織変更を行う。
 - ・ ODP 関連作業 (SC 33/WG 4, WG 5, WG 7) SC 7 に移管
 - ・ SC 33/WG 1 (Messaging), WG 2 (Directory), WG 8 (ASN), WG 7 (QoS) SC 6
 - ・ SC 33/WG 6 (Distributed Management) ITU-T SG4
 - ・ SC 33/WG 3(TP), WG 9(E-LOTOS) キャンセル

- ・ SC 33 OSI Maintenance UK (1年間, 以降は必要性をレビュー)

(4) その他

- 1) SC 1: フランスが本年末で幹事国を降りることを表明し, 引き受け手もない状況から, 幹事国の募集並びに SC 1 の別の運営モードについての寄書を募集することとした。(関連決議 5)
(Viklund 氏(スウェーデン)によれば, カナダの SC 1 委員は HTML 版用語データベースの管理を行う用意があるとのこと. カナダは幹事国を引き受ける意思はない旨を表明.)
- 2) SC 22: 幹事国を降りると言っていた米国が幹事国を継続することとなった。(関連決議 6)
- 3) SC 32: SC 32 の改訂されたタイトルとスコープが承認され, 幹事国も米国が引き受けることとなった。(関連決議 7, 16)

4.2 JTC 1 Directives (第 4 版)の承認(関連決議 43, 44)

- (1) JTC 1 Directives (第 4 版)を承認した。同時に JTC 1 Directives (第 4 版)を JTC 1 WEB サイト上に HTML 文書として出版することを JTC 1 事務局に強く要請した。
- (2) 改版内容は, 基本的には第 3 版以降に承認された変更の反映が中心であるが, 以下の追加/明確化が行われている。
 - 1) テクニカルレポートを DTR (タイプ 3)としてのファストトラック提案することが可能となった。
 - 2) DAM のファストトラックを担当 SC の承認のもとに可能とすることを明確化した。
 - 3) 日本からコメントした FDIS/FDAM の disapproval 時に technical reasons を述べるか否かについては, ドイツからも同様の主旨のコメントがあり, technical reasons を述べることを明記した。
 - 4) (ISO と TC/SC 幹事国業務を持つ ISO 会員団体との間のサービス協定を反映して) ITTF と JTC 1 事務局間の役割分担を明確化した。

4.3 電子化(IT Implementation Strategies)

- (1) RG-IIT (Rapporteur Group for Implementing Information Technology)の設置(関連決議 24)
JTC 1 の IT Implementation に関わる種々の活動に対応するためのラポータグループの設置が決まった。
- (2) Electronic Collaboration (関連決議 28)
JTC 1 はすべての SC が Electronic Collaboration Packages を実験し, その結果をブラジル総会で報告することを奨励する。(Electronic Collaboration に関する JTC 1 の方針に関するベースドキュメントは N3889.)
- (3) 電子投票(関連決議 29)
電子投票の試行への各国のコメントをレビューし, 必須改善項目として, セキュリティ問題, コメントボックスへの要件(使い易さの向上等), レター投票の状態(表示)の三点を確認。必須項目への対応後に電子投票を実施に移すことを JTC 1 事務局に指示した。
- (4) WEB site implementation (関連決議 30)

WEB を立ち上げていない SC に対して, 直ちに WEB を立ち上げる(SCs shall begin)ことを JTC 1 として決議した。(日本が幹事国を務める SC では SC 26 が該当)

(5) ITTF ドキュメントの電子化(関連決議 31)

ITTF に対して, JTC 1 及び SC の Secretariat に配布するすべてのドキュメント(NB 投票のための最終ドラフト, Tables of Replies, published standards 等)を電子的な形式で提供することを要請した。これにより, ITTF での滞留時間を短縮できる。(当面は 1 ヶ月以内. 1998 年末迄には 1 週間にするのが JTC 1 の期待.)

(6) Secretariat Reports (関連決議 4)

JTC 1 総会で配布報告されている JTC 1 及び SC Secretariat Reports については, WEB 上に最新の情報がアップされていてアクセス可能な場合には, 今後は別に Secretariat Reports を総会で配布する必要はなくなる。

4.4 その他

(1) IEC TC 100 との関係(関連決議 12)

IEC TC 100 のスコープに関して提起されたコンサーンをフォローアップするために, JTC 1 議長に JTC 1 代表と IEC/TC 100 の代表との間のミーティングを設定するよう要請した。このミーティングでは JTC 1 と TC 100 のスコープのオーバーラップに関する問題の解決と今後の協力のためのメカニズムの樹立を目指す。

(2) CEN/ISSS (関連決議 16)

JTC 1 と CEN/ISSS との協力方法についての NB からの寄書が求められた。ブラジル総会で検討される。

(3) ISO/TC 154 (関連決議 45)

- 1) ISO 9735 に関する JTC 1 と TC 154 の共同勧告のまとめ (JTC 1 側のリード役はカナダ)
- 2) TC 154 との協力 (EC のあらゆる側面を一つの TC がカバーすることは困難との意識のもとに, TC 154 との協力方法を探究することとした。JTC 1 側のリード役はドイツ.)

3) MOU Management Group への JTC 1 代表団の設置。団長には Alan Harberman (米国, SC 31 Chair) を指名。

(4) ビジネスチーム (関連決議 8, 9, 10, 11)

- 1) 電子商取引ビジネスチームのレポート (N5296) について, NB/SC に対して, レビュー/コメントを要請する。
- 2) 電子商取引ビジネスチームの自己評価レポート (N5297) に含まれる勧告については, ブラジル総会でレビューを行う。
- 3) 電子商取引ビジネスチームは解散する。
- 4) Imaging and Graphics ビジネスチーム (旧名称 Imaging ビジネスチーム) はブラジル総会までに任務を完了する。

(5) PAS 関連トピックス (関連決議 15, 50, 52)

- 1) X/Open からの PAS 提案経験に基づく改善提案 DAVIC からの PAS 提案予定に関するプレゼンテーションが行われた。

- 2) PAS プロセスの改訂
NB と PAS サブミッタ認定者に対して、PAS プロセスの運用に関する提案 / コメントを募集することとした（締切は 9 月 30 日）。PAS アドホック会議を 11 月中旬に開催し、JTC 1 Directives の Supplement 1 と PAS Management Guide の改訂案の作成を目指す。
- 3) ISO と IEC により制定された新たなドキュメントに PAS という名称が使われていることに対して、(異なるものに JTC 1 の PAS と同じ名前を付けるのは)混乱の源になるとの JTC 1 の懸念を ISO 及び IEC の Councils に伝えることとした。
- (6) 総会向けの寄書の提出期限（関連決議 3）
- 1) 前回のオタワ総会での寄書の提出期限に関する決議が守られていないとの指摘が、会議の冒頭でスイスよりなされ、ブラジル総会向けの寄書の提出期限を明確化した。98 年 12 月 25 日までに JTC 1 Secretariat 必着が原則。
(注) 例外等の詳細は決議 3 参照
- 2) 日本が会場に持参した寄書 2 件(SC 11/SC 23 の統合に関するドイツの提案へのコメントと IEC からの JTC 1 標準の使用状況の問い合わせに対するコメント)は提出期限を過ぎていたとの理由で今回の総会用の寄書としては受け付けられなかった。
- (7) 標準ドキュメントの利用関連（関連決議 26, 32, 32A）
- 1) JTC 1 は WD, CD 等のドラフトドキュメントについては、ISO/IEC より 1 年間の試行ということで、無償で自由に利用することが許されていたが、この試行期間を更に 2 年間延長することを要求することとした。
- 2) WEB 上で無償で利用できるドキュメントの基準として、レファレンスモデルに関わる標準を基準とする ITTF の提案（N 5165）に対して、以下の基準を追加することを勧告した。
- (a)他のドキュメントを単にポイントしているだけの標準
(b)同一のドキュメントが他の WEB 上で無償で公開されている標準
(c)テクニカルレポート（タイプ 1, 2, 3）
(d)テクニカル・コリジェンダ（正誤表）
- 3) 標準化目的のためであれば、JTC 1 あるいは ISO/IEC の内で開発された他の標準に無償でアクセスできる。
- (8) ビジネスプランテンプレートの改訂（関連決議 49）
- 1) ビジネスプランテンプレートのテキストに曖昧な点があることが、総会前日の Chairmen's Forum で話題となったとのことで、改訂版が提案され承認された。JTC 1 総会と SC 総会の同期がとれない場合にビジネスプランがカバーすべき期間についての明確化（基本的には SC 総会間）とそれに対処するための Chairman's Remarks の欄が設けられた。

- 2) JTC 1 のアクションを必要とするような事項は、ビジネスプランの一部として記載するだけでなく、別に JTC 1 に寄書として提案されるべきとの注も追加された。本件は、SC 23 がビジネスプランの中で、スコープの拡張を提案したことに対して、米国がスコープの拡張等アクションを必要とする事項は別の寄書とすべきと反対したことに配慮したもの。
(注) SC 23 のスコープの拡張の件は、60 日投票で決定されることとなった。（関連決議 40）

5. 今後の開催予定

1999 年 1 月 26 日-29 日	ブラジル（リオデジャネイロ）
1999 年 10 月	韓国（ソウル）
2000 年中頃	未定
2001 年 4 月～6 月頃	米国

6. 所感

4.4 (6) で触れたが、今後は総会向けの寄書の提出期限の運用がより厳格化される見通しである。ブラジル総会向けの寄書の提出期限は、年末年始にかかることから、日本からの寄書は早めに準備すると同時に、各国からの寄書に対しては WWW に掲載されると同時に分担して内容を把握し、コメントすべきものは早期に対応していくことが必要である。

[参考] ブラジル総会向け寄書提出期限

新規事項：98 年 12 月 25 日

寄書へのコメント他：99 年 1 月 15 日

寄書提出期限(98 年 12 月 25 日)以降に開催された SC ミーティング関連のドキュメント：SC ミーティング後、2 日以内

SC 1 (Vocabulary / 用語) 総会報告

SC 1 専門委員会

委員長 大野 義夫(慶大)

E-mail : ohno@on.cs.keio.ac.jp

1. 開催場所 : シスタ (スウェーデン)

2. 開催期間 : 1998-05-25/29

3. 参加国数 / 出席者数 : 9 カ国 / 17 名

米(1), 仏(5), 独(3), 加(1), ノルウェー(1), ポーランド(1), エストニア(1), フィンランド(1), 日(3 名 : 平井通宏(日立製作所), 田辺雅秋(NTT), 大野義夫(慶大))

4. 議事内容 :

WG に分かれて, ISO/IEC 2382 の各パートの審議を行なった。この会議で審議したパートの状況などを以下に記す。

Part 01 "Fundamental terms" 改訂作業に着手し, Kista での討議結果を 1st WD として 1998-10-15 締め切りでコメントを求める。また, タイトルを "Fundamental concepts" に変更する。

Part 03 "Equipment technology" Part 11 と合併し, タイトルを "Equipment technology and processing units" に変更する。また, Hull 中間会議での改訂作業に Part 11 の用語を加えて 1st WD とし, 1998-10-15 締め切りでコメントを求める。

Part 04 "Organization of data" 従来の FCD 案に Kista での改訂を加えて FCD とし, 投票にかける。

Part 05 "Representation of data" 従来の FCD 案に Kista での改訂を加えて FCD とし, 投票にかける。

Part 08 "Security" 2nd DIS に Kista での改訂を加えて IS とする。

Part 11 "Processing units" Part 03 と合併させ, このパートは削除する。

Part 12 "Peripheral equipment" このパートを分割し, タイトルを "Peripheral equipment -- General concepts and storage devices" とする(もう一方は Part 38 とする)。また 2nd WD に Kista での改訂を加えて 3rd WD とし, 1998-12-15 締め切りでコメントを求める。

Part 17 "Databases" 従来の IS 案に Hull 中間会議での字句訂正を加えて IS とする。

Part 18 "Distributed data processing" 1st CD に Paris 中間会議での改訂を加えて 2nd FCD として投票にかける。

Part 21 "Interfaces between process computer systems and technical processes" を 2000 年時点での定期見直しのときに, 「現状のま

ま維持」とする。

Part 23 "Text processing" の改訂作業に着手する。

Part 27 "Office automation" の改訂作業に着手する。

Part 29 "Artificial intelligence -- Speech recognition and synthesis" FCD に Kista での改訂を加えて FDIS とし, 投票にかける。

Part 32 "Electronic mail" FCD に Paris 中間会議での改訂を加えて FDIS とし, 投票にかける。

Part 33 "Hypermedia and multimedia" 1st CD に Kista での改訂を加えて 2nd CD とし, 1998-10-31 締め切りで投票にかける。

Part 34 "Artificial intelligence -- Neural networks" 3rd CD に Kista での改訂を加えて FCD とし, 投票にかける。

Part 35 "Networking" 1st CD に Kista での改訂を加えて 2nd CD とし, 投票にかける。

Part 36 "Private integrated services networks" 用語を他のパートに適宜組み込み, このパートは削除する。

Part 37 "Virtual reality" 1st WD に Kista での改訂を加えて 2nd WD とし, 1998-10-31 締め切りでコメントを求める。

Part 38 "Peripheral equipment -- Input/output units and accessories" Part 12 の一部を Part 38 として独立させる。

1998-9-30 までに, 電子メールを中心とした, SC 1 の新たな運営体制を作る。

5. 今後の開催予定 :

1999-06-07/12	東京(日本)
2000	オスロ(ノルウェー)
2001	ベルリン(独)
2002	アメリカ
2003	ハル(加)

この他, WG ごとに下記の間会議を予定している。

WG 4	1998-11-16/20	ワシントン DC(米)
WG 5	1998-11-09/13	ワシントン DC(米)
WG 6	1998-11-02/06	ハル(加)
WG 7	1999-02-22/26	フランクフルト(独)

6. その他 :

アメリカの Mr. Helmut Thiess を WG 4 の Convenor に選出した。彼は当面 WG 5 の Convenor も兼ねる。

フランスの Ms. Elisabeth Blanchon が Chairperson を辞任し, 事務局をつとめてきた AFNOR も今年いっぱい手を引く。このため, 新たな Chairperson と事務局を募る。

今後は規格案の審議などの活動を電子メール中心にすることが合意され, また, 諸文書の管理をカナダが引き受けた。

昨年のHu11全体会議にくらべると参加者が5名減少した。昨年は地元カナダが7名参加したのに対して、今回は地元スウェーデンが不参加であったことが大きい。また今回は参加者不足でWG5を開催することができなかった。

日本を含めて、各国とも定常的な審議や、中間会議・全体会議への参加者不足に悩んでおり、SC1は転機を迎えた感が強い。

SC 6 (Telecommunications and Information Exchange Between Systems / 通信とシステム間の情報交換) 総会報告

SC 6 専門委員会

委員長 木下 研作 (NTT)

E-mail : kinoshita.kensaku@na.tnl.ntt.co.jp

1. 開催場所： ソウル市 (韓国)

2. 開催期間： 1998-5-23

3. 参加国 / 出席者： 8カ国, 1リエゾン機関 / 33名

豪(2), 加(2), チェコ(1), 独(4), 日(5: 木下研作(NTT), 榎本孝(NTT ラーニングシステムズ), 山口勝(日本電気), 塚谷俊道(日立), 松本孝純(沖電気)), 韓国(5), ノルウェー(2), 英(5), 米(6), ITU-T(1)

4. 議事内容：

4.1 概要

今回の会議では、64件の決議を採択し、以下の進捗があった。

IS/AM/TR/CORとして出版されるもの：27件

FDIS/FDAM/DTR/DCORとして郵便投票されるもの：25件

FCD/FPDAM/PDTRとして郵便投票されるもの：4件

CD/PDAMとして郵便投票されるもの：2件

NPとして郵便投票されるもの：1件

4.2 無線LAN関連

DIS投票に関し、アメリカが多数の技術的修正要求を理由に条件付き反対投票をした。審議の結果、変更内容は管理系の仕様をOSI系とSNMP系の2本建てのところをSNMPに表現を統一する事により仕様のメンテナンスを容易にし、更に判りやすくする為のものであるという理由で、アメリカの意見が採用された。その結果、IS化が決定された。この決定により、Calling Nameについて、日本にはITU-R25条、MPT notice No.759が存在する事を本文に記載する事が最終決定された事になる。

4.3 HDLC関連

非基本フレームフォーマットのHDLC拡張において、AM1からAM3はアmendメント化が承認された。米国提案のテレメトリに使用するAM4からAM6では、参加国5カ国でNPはぎりぎり成立した。AM1からAM6に関する日本の意見は反映され、全ての文書をまとめFCD投票に

かけることとなった。

4.4 ISDN 一次群コネクタ

DIS投票に関し、ドイツより同軸ケーブルの記載削除の要求があったが、I.431に規定があるため、削除できないとの意見があり、結局コメントは却下となった。この結果、現状の形でIS化が決定した。この決定により、キー付きコネクタは、各国の要求に従い、形状の変更が可能であるという条件付きであるものの、日本で使用されているキー付きコネクタは国際標準化された事になる。

4.5 Mobility関連等

1995年12月のブラジル・イグアス会議以降続いたMobilityの議論が今回会議でのFCD投票のコメント処理で実質的に終了した。欧州からはDECT方式を、日本からは事業所用PHS方式をインプットし、両方式を基本とする国際標準が作成された。このことにより日本の事業所用PHSが国際的に認知された事は大きな成果と考える。又WG6における日本のポジションが上がった事も成果と考える。

4.6 ECTS, ECTP関連

ECTSは日本コメントが反映され、ITU-T/SG7との合同中間会議での審議後、FDIS投票へ進めることとなった。ECTPは6月のCD投票の版の改版が入力され、9月中間会議にむけ、さらに改版されたものが提案される予定である。中間会議での審議により、CDあるいはFCD投票へ進めることとなった。ECTP関連として、CDP, GMP, APIも提案され、今後より詳しく検討されていく予定である。ECTS/ECTP全体として、12月のIETF会議での提案/デモに向けての活動がすすめられている。

4.7 リエンジニアリング

(1) SC 33 課題に対する緊急措置

SC 33の設立が危ぶまれる状況を考慮して、緊急措置として、これまでSC 18およびSC 21でおこなわれてきた、以下の項目を、SC 6/WG 7に移行することをJTC 1仙台総会に提起する。

SC 18: Messaging

SC 21: Directory

ASN.1

QoS Framework, Method & Mechanism

(2) SC 25, SC 26 との連携

新たな技術指針(TD) "Networking & Interconnects"に基づき、SC 25, SC 26, SC 6の連携のあり方が議論された。SC 26/WG 3 コンビナも会議に参加され、特に、SC 25/WG 4 (FDDI, HIPPI, FC等高速LAN)とSC 26(特にIEEE1394のファーストトラック)とSC 6/WG 3 (LAN物理レイヤ)との連携が、各々課題の共通性、参加国数、参加者規模、専門性の類似性、等の面から議論された。当面、同一場所での開催につとめるとともに(1999年7月にベルリンでSC 25と同一会場で連続開催)、まず2SCに統合し、将来的に1つのSC化を目指す方向で、東京での3つのSC議長会議、JTC 1仙台総会にのぞむことが合意された。

電子的手段のさらなる活用，ITU - T，IETF (12月の総会で ECTF のデモ実施等)との連携の活性化を進めることとなった。

5. 今後の開催予定：

1999-01-10/16 シドニー
1999-07 ベルリン
2000-05 ブラハ
2001-01/02 日本

なお，日本開催については，規格役員会リフレクタでは，2001年3-4月ということで，事前に了解をいただいたが，ベルリン会議がはやまったため，1-2ヵ月早めるように変更した。

6. 感想等

(1) IEEE802 委員会から提案される LAN 関連課題については，ISO/IEC 標準文書と IEEE802 標準文書の同一性やそのための投票・改訂作業のタイミングが問題となっていることもあり，手続き論はあまり重視されなくなりつつあるという印象を持った。

(2) WG 3 の今後のテーマは，Gigabit Ethernet，コネクタのメンテナンスに集約される。課題が少なくなってきた現状を考えると，SC 25 合同のより，WG のスコープを広げ，活性化を図るのは意味があると思われる。

(3) Mobility の議論がほぼ集結したが，今後は今回ソウル会議で話が出たように Voice over IP の議論が中心となることが予想される。国内委員会と密に連携し市場ニーズに見合った標準作成へ寄与して行く。

SC 7 (Software Engineering / ソフトウェア技術) 総会報告

SC 7 専門委員会
委員長 山本 喜一 (慶大)
E-mail : yama@cs.keio.ac.jp

1. 開催場所：ヨハネスブルグ(南アフリカ共和国)

2. 開催期間：1998-05-25/29

3. 参加国数 / 出席者数：19 カ国 / 122 名

豪(11)，ブラジル(3)，加(7)，チェコ(1)，デンマーク(1)，フィンランド(1)，仏(11)，独(4)，アイルランド(3)，イスラエル(2)，伊(2)，韓国(7)，オランダ(1)，南アフリカ(11)，スペイン(3)，スウェーデン(2)，英(15)，米(24)，日(13：山本 喜一(慶大)，東 基衛(早大)，込山 俊博(日電)，谷津 行穂(日本 IBM)，村上 憲稔(富士通)，加藤 重信(凸版印刷)，高橋 宗雄(桐陰大)，小川 清(名古屋市工研)，忠海 均(NTT)，篠木 裕二(日立)，西山 茂(NTT)，小田 澄男(日本ユニシス)，

塩谷 和範(SRA))

4. 議事内容

4.1 Advisory Group

24日と28日夕方に開催され，日本からは山本，西山(NTT)が出席し，WG 6 コンビーナとして東(早大)が出席した。主な話題は以下の通り。

(1) 9001 と 9004 の改版に対する SC 7 としてのコメントを今会議期間中に作成することが要請され初期版を完成した。

(2) SC 7 としての Vocabulary を整備することの提案が豪からなされ，会議期間中に打ち合わせがもたれた。この結果，重要な標準の定義等から用語を取り出し，データベース化するとともに，用語間の矛盾などの解消を検討することになった。

(3) プロセスを扱う 3 つの標準(12207，15288，15504)の整合性を考える作業部会を今会期中に開催した(Andy's Group)。具体的な合意には至らなかったが，整合性のとれたドキュメントの開発が必要である点については意見の一致をみた。

(4) 作業ドキュメント以外は PDF を正式ドキュメントとする。今後，ファックスや郵便による投票は行わない。また，6ヵ月以内に JTC 1 の電子ドキュメント配布法を実現する。

(5) 日本の提案を受けて，Document Register は，Excel などで処理できる方式に変更する。

4.2 SWG 1(Business Planning)

従来 BPG として活動を続けてきたが，SC 7 議長が Convener となる SWG 1 として山本を含む 9 名がメン

バーとして認められた。SC 7 の活動をさらに活発化し，効率良く作業するための提言を行う。

4.3 総会

25日午前，及び29日の午後に開催され，例年の通り事前の AG において問題になる事項についての議論が終わっているので，総会自体は特に波乱なく終了し 33 件の議決案が決議された。詳細は省略するが，各 WG のプロジェクトの進捗に伴う議決以外の主要な決議は次の通りであった。

(1) SWG 1 の Co-convener に米国の J. Moore が就任

(2) プロジェクト 07.03.39 Process Information Products (Documentation)[WG 2]のエディタを米国が降りたことに対して，次の中間会議までに日本からエディタを出すように要請された。

(3) WG 10 は，TR 15504 を IS 化することを目的として，Project Requirement と予定を作成する。また，WG 10 は，WG 7 および WG 13 と連絡を取り合う。

(4) 60日投票のため，12207 の改版のための Project Requirement を回覧する(N 1940)。また，議長は Andy's Group の結果を考慮し，その結果を 1999年2月までに報告するように求められた。

(5) 9001 と 9004 に対するコメントを作成するための Ad

hoc グループを設立する。

(6) SC 33 が中止された場合、ODP を SC 7 が引き受ける。
(7) WG 10 と SPICE User Group (SUGaR) とのリエゾン関係を探る。

(8) BPG のレポート N1 942 (JTC 1/SC 7 Product Line Framework) を 1998 年 10 月 1 日までに 60 日投票にまわす。

(9) SWG 2 (Terminology) の継続。報告は 1999 年 2 月 15 日

(10) コメントディスポジションレポートには最低限以下の情報を含めること。

- 1) コメント識別子
- 2) コメント本文
- 3) コメントへの賛否の表明：受入れ (A), 原則受入れ (AIP), 拒否 (R), 引き下げ (W), 置き換え (OBE)
- 4) 対処が A 以外は、手短かに理由を述べる。TH のコメントを拒否する場合は WG の議事録、あるいは投票を参照しなければならない。

(11) (10) の要求を守らないディスポジションレポートは返却される。

5. 今後の開催予定

1999-05-24/28	ブラジル	クリティバ
2000	スペイン	マドリッド
2001	日本	名古屋

2000 年の開催を予定していた独が開催できなくなり、急遽スペインが名乗りを上げた。名古屋での 2001 年の開催が正式に認められた。ますます参加者が増加するであろう名古屋での総会開催に向けて、今後も関係各位のご協力をお願いする。

6. その他

開催国の関係でいつもより小人数の開催となったが、例年どおり日曜から金曜まで会議は整然と行われ、実り多いものであった。日本から 13 人も多くの方に参加していただき、さらに連日のハードワークに耐えていただき、感謝する。今回は代表一人一人にレジストレーション番号が与えられ、その番号ごとにメールボックスが用意されていて、非常に便利であった。

SC 11(Flexible Magnetic Media for Digital Data Interchange / フレキシブル磁気媒体)国際会議報告

SC 11 専門委員会
委員長 大石 完一 (パルステック工業)
E-mail : k-ohishi@pulstec.co.jp

1. 開催場所：サンフランシスコ (米国)

2. 開催期間：1998-5-19/21

3. 参加国数 / 参加者数：4 カ国 / 15 名

独 (1), スイス (2), 米 (8, 議長及び幹事を含む), 日本 (4: 大石 (パルステック工業), 荒木 (日本ユニシス), 中島 (ソニー), 村上 (日本システムハウス))

4. 議事内容

4.1 標準媒体開発規定の改正

磁気記録媒体の互換性を保証する要となる標準媒体の開発規定を Fast Track Procedure (FTP) 運用時にも適合できるように、前回のベルリン会議で改正 (SC 11 N 1568) したが、運用してみると、実状にそぐわない部分があるということで、ECMA から再度改正提案が提出された。

前回の改正では、FTP の場合でも評価者を募り、仮の基準媒体を DIS 投票開始前に配付して国際評価した上で制定するになっていたが、FTP は既存規格を DIS として提案するものなので、標準媒体について殊更、国際評価を義務付けず、評価希望者があれば提供 (適価) するという主旨の提案 (SC 11 N 1690) である。この提案は、総会開催直前に配布された関係もあってコメントを寄せたのは日本だけであったが、参加各国から活発な意見交換が行われた。

日本からは、主旨には賛成できるが、細部規定の中の「2 カ国以上からコメントがあった場合に SC 11 の審議対象とする」という改正案文について、「一カ国からでもコメントがあれば審議すべきである」というコメントなどを提出 (SC 11 N 1699), 審議が行われた。

審議の結果、「評価結果のコメントがあれば SC 11 の標準媒体レポートに申し出ることによって検討する」というように修正することになった。

なお、本会議での結論を踏まえてヘキミ氏 (スイス) が、標準媒体開発規定を、Five-stage Process の場合と、Fast-track Process の場合とに分けて、別々に作ることになった。(Resolution 2/98)

4.2 SC 11 と SC 23 の統合案について

ドイツから提案された SC 11 と SC23 の統合案 (SC 11 N 1697) について審議し、SC 11 と SC23 は、基本構成技術、審議する技術者の分野が大きく異なり、プログラムワークの重複もない等、統合しても意味がないので反対することが決議された。この結果は、Resolution には特に記載せず、6 月 2/5 日に開催される JTC 1 総会 (仙台) に提出する SC 11 Business Plan (SC 11 議長提出) の中で述べるに止めることにした。

4.3 SC 11 ビジネスプランの審議

6 月 2/5 日に開催される JTC1 総会 (仙台) に SC 11 議長から報告する SC 11 Business Plan 案 (SC 11 N 1704,) を審議し、JTC 1 仙台総会に提出する文書をまとめた。

磁気記録媒体は、時代のニーズに伴い、大容量化と高速化の開発がハイピッチで進んでおり、2000 年の春までに標準化が新たに予定されるものは、次のとおり (カッコ内は提案国で、いずれも FTP) 。

3.81mm MTC, DDS-4 format - DIS July 1999 (日本)
8mm MTC, AIT-2 format - DIS December 1999 (ECMA)
8mm MTC, DA-3 format - DIS December 1999 (ECMA)
12.7mm MTC, Magstar - DIS January 1999 (米国?)
12.7mm MTC, DLT-6 format - DIS December 1999 (ECMA)
(Resolution 4/98)

4.4 既存規格書の定期見直し

ITTF 要請の既発行規格書の5年見直し(SC 11 N 1703)について審議し、日本としては、一部、使用されなくなった規格の廃止を提案したが、米国及び欧州で使用しているのを継続したいとの要望を受け入れ "Confirm" とした (Resolution 3/98)。

4.5 プロジェクトの廃止

NP からの規格化審議をしていた 12.65mm MTC, RSP format (ISO/IEC WD 15204) は、競合他商品に打ち勝てる見込がなくなったことから標準化審議を中止したいとの米国提案 (SC 11 N 1701) があり、プロジェクト No.JTC1.11.29.01 を廃止することになった。(Resolution 6/98)

5. 今後の開催予定

2000-05-09/11 第7回 モントルー (スイス)
2002年春 第8回 未定 (日本開催の打診あり)

6. 感想

今回の会議は、モスクワ (ロシア) で開催される予定であったが、間際になってロシア側の経済的理由 (?) から米国開催に変更されたこと、地の利の関係もあり、参加国及び参加者は、最少となった。

情報交換用磁気記録媒体は、情報処理技術の進展に伴って、高速化・大容量化に向けて磁気テープ及びフレキシブルディスク等の各種の新製品開発が依然として活発化している。この内、フレキシブルディスクは、エンドユーザが個人主体となるためか公的規格化とせずにより事実上で実質的シェアを確保することに力を入れる傾向が見られるが、磁気テープについては公的機関や大手企業で採用することが多く、公的規格化が採用条件になる事情から標準化要請が活発化する傾向にある。そのために、規格化が急がれ FTP 主体にならざるを得ない事情が生じていると思われる。

現在情報交換用記録媒体の技術開発の主体は米国及び日本となっており、近年、日本発の FTP もできるようになったが、標準化は、依然として ECMA 主体で行われている状況にある。

SC 24 (Computer Graphics and Image Processing / コンピュータグラフィクスとイメージ処理) 総会報告

SC 24 専門委員会
委員長 川合 慧(東大)

1. 開催場所：オランダ (フロリダ州, 米)

2. 開催期間：1998-07-29

3. 参加国数/出席者数：8 カ国 1 機関 / 32 名

米(12), 韓国(5), 英(3), 独(2), オランダ(2), 仏(1), チェコ(1), NATO リエゾン(1: 英), 事務局(1: 英), 日(4: 青野雅樹(日本 IBM), 有我成城(PFU), 藤村是明(電総研), 川合慧(東大))

4. 議事内容

今回は、新規格の取り入れ方法やこれまでの規格の保守といった話題が多かった。また直前の26日には同一場所で JTC 1 のビジネスチーム活動である Imaging and Graphics Business Team (IGBT) (注1) の会合が開かれ (日本からは藤村, 川合が参加), SC 24 関連の多くの話題が提供された。事項ごとの内容を示す。

4.1 応用プログラムインタフェース

(1) PHIGS

階層的対話型グラフィクスシステム規格 PHIGS では、第2版 (1997年に出版) の作業中に検出された欠陥8箇所の処理を行なう。

(2) GKS

グラフィクス中核系 GKS の第2版については、昨年のリエンジニアリングにより削除された Fortran 言語結合の、削除時点で完成していた FCD 文書を公開する要請を JTC 1 に対して行なう。

4.2 マルチメディア環境

マルチメディアオブジェクトの提示環境規格 PREMO は今年中に IS となる。これについて、昨年と同様に公開する要請を JTC 1 に対して行なう。また、PREMO の解説書が出版されるとのことである。

4.3 メタファイル

(1) CGM

図形情報の転送と蓄積のプロトコル規格 CGM は、第3版が年内に完成の予定である。第3版は、第2版の4つのパートのうち使用頻度が極めて小さいパート2 (文字符号化) を除外して作成する。関連して、欠陥8ヶ所の処理を行なう。

(2) VRML

仮想現実モデリング言語 VRML のパート1の IS 化は1997年末に完了したが、引続きパート2 (外部オーサリングインタフェース) 及びパート1のアmendメント (相互運用性拡張) を FCD として作業する。作業は VRML コンソシアム (VRMLC) と協力して行う。

(3) PNG

ネットワークを意識した画像表現書式である可搬ネットワークグラフィクス PNG は先頃 NP として承認されたが、その FCD 文書作成の作業を行なった。この事項は WWW コンソシアム (W3C) と協力して作業する。

(4) SMIL

複数のマルチメディア内容を同期を含めて記述するための言語を W3C で作成中である。名前は Synchronized Multimedia Integration Language (SMIL)。SMIL によれば WEB であたかもテレビを見るようにデータを統合できる。これを PNG と同様な共同作業により規格とするため、NP 投票にかける。

4.4 イメージ処理

(1) IPI/BIIF

イメージ処理規格 IPI については、簡便な交換書式 BIIF を今年度 IS 化した。その欠陥 14ヶ所の処理を行なう。BIIF についてはこの他に、プロファイル、検定、普及などの話題を検討した。

(2) IPI 関連検討グループ

IPI に関連して設けられていた、ベンチマークと装置インタフェースの 2つの検討グループは解散する。

(3) 登録

IPI および CGM 関連でプロファイルの登録をするため、登録を扱う IS (IS 9973) のアmendメントを検討したが、現行規定内で処理可能であることが判明したため、その手続きを進める。また、登録機関の変更については、技術訂正 (Technical Corrigendum) の形で処理する。

4.5 その他

(1) 関連活動

この会議の直前に開かれた IGBT(注 1)及び会議期間中に紹介とデモがあった「座標系で表現可能な環境データの標準表現」プロジェクト Synthetic Environment Data Representation & Interchange Specification (SEDRIS)(注 2)は SC 24 関連の多くの話題を提供するものであった。なお SEDRIS は、アメリカの政府機関や軍がサポートしている。

(2) 議長及び主査

a) これまでの議長である Steve Carson の 3 年の任期が終了した。年始めには継続が困難という話であったが、その後可能となった旨が述べられた。このため継続の承認をアメリカに求める。正式承認までは代行という資格となる。

b) WG 7 は代行主査の Robert Garneau に代わって Laura Moore が主査となる。

(3) 組織の解散

a) 言語結合担当の WG 4 は、すべての作業を終了したのでこの会議をもって解散する。

b) PREMO を作業した WG 6/PREMO RG もこの会議をもって解散する。

c) WG 7 に設けていた 2つの SG を解散する (4.4(2)参照)。

(4) 組織の拡充

IGBT や SEDRIS に関連する項目、たとえばメタデータ、形状モデル、関係モデル、シミュレーションあるいは教育用のシステム要素、などを対象とした新しい作業項目の検討を開始する。項目の検討はこの会議以降引き続き行

ない、新しい WG と RG を作る方向で作業する。

(5) 他組織との協調

a) VRMLC, W3C, 及び NATO AGIV との間の協調合意 (Cooperative agreement) を継続する。

b) 2つのコンソシアム CGM Open 及び IMA とのカテゴリ C のリエゾンに JTC 1 に申請する。

c) リエンジニアリングで一まとめにされた SC 29 と合同の管理運営会合を 10月 11日に開くこととした。両 SC の同一場所での総会開催については、1999 年の両 SC の会議日程の確定が先行しているため 2000 年度以降について検討する。

5. 今後の開催予定

1999-06-07/11 韓国

2000 以降 未定 (SC 29 との同時期同一場所開催予定)

6. その他

(1) 今回の会議では、組織の再編、規格の保守、他の組織との協力、といった管理・政策的な議論が主であったが、IGBT の議論や SEDRIS の内容から、SC 24 としての新しい取り組み項目の案とそれに対応するための組織構成の検討も行なった。

(2) 会議参加者数は前年とほぼ同じであったが、参加国数は 10 から 8 に減少した。ここ 2, 3 年でスウェーデン、オーストリア、カナダ、ブラジルといった国からの参加が無くなっている。この状況についての意見交換があり、専門家不足及び参加資金不足が共通の問題であること、及び新傾向の項目によって参加者を募ることの重要性が確認された。

(注 1) IGBT については以下の URL を参照のこと。

<http://www.globalcollaboration.org/jtc1/igbt/>

(注 2) SEDRIS については以下の URL を参照のこと。

<http://www.sedris.com>

SC 25 (Interconnection of Information Technology Equipment / 情報機器間の相互接続) 総会報告

SC 25 専門委員会

委員長 岡田 義邦(工技院・電総研)

E-mail : yokada@etl.go.jp

1. 開催場所： 東京(日本)

2. 開催日時： 1998-6-29

3. 参加国数/出席者数： 15 カ国 / 38 名

議長(Popovic D.,独), 幹事(W.D.Von Patay), 豪(1), オランダ(1), ベルギー(1), 加(2), メキシコ(1), デンマーク(1), 仏(2), 独(6), アイルランド(1), ニュージー

ランド(1), ノルウェー(2), スエーデン(2), 英(2), 米(4), 日(7: 岡田(電総研), 中島(工技院), 狩野(EIAJ), 奈良 NTT), 山本(松下電工), 隈倉(ネットマークス), 森, 中山(ソニー), SC 6(議長, 幹事)

4. 議事内容

例年のように総会に先立って 6-25/28 の 4 日間に WG 1, 3, 4 の会議が行われた。

4.1 リエンジニアリング関連

リエンジニアリング関連事項としては, Networking and Interconnect なる方向で, SC 6, SC 25, SC 26 は, 方法 B (SC 間の緊密な協調) での協力が提案されている (JTC 1 N4631)。SC 25 としてもこの方向を確認し (B15), SC 間の緊密な協調の一環として, 本年の SC 25 の東京会議で, SC 26 の会議を同一場所, 時期に開催することを SC 26 に提案した結果, 6-28 に SC 26 と SC 25/WG 4 との合同会議を行う事となった。また, SC 6 の議長・幹事が総会に出席し, 来年度の開催時期を討議した。

4.2 WG 1 関連

WG 1 では, いくつかの TR を作成中であり, その進行が認められた。

HomeGate- Rev 3(CD for Comments), Objects and Methods for ... Bldgs(CD for Comments), Home & Bldg. Automation ... rev 3(CD for Comment), Model of an HVACSys for HES (PDTR Vote), Interpretability (NWIP), HES Terminology(DTR vote), HES Introduction (DTR vote), HES Architecture part 2-1, 2(DTR for vote), Application Services & Protocol(DTR vote), Energy Management Model (DTR vote), Security System Model (DTR vote), Functional Safety(DTR vote)

また, UI:Class 1-rev 2 (final destination IS) の FCD 投票が認められた。

4.3 WG 3 関連

主な決議事項は次の通り。

(1) 11801(構内配線): DAM2 の出版を進めるとともに, DAM3 の投票を行う。

(2) Administration for Customer Premises Cabling: 最終出版へ

(3) Implementation and operation of customer premises cabling-part 3: FCD

(4) Acceptance testing for copper cabling (14763-3): 廃止

4.4 WG 4 関連

4.4.1 FDDI 関連

PHY, MAC の標準継続, Flexible Disk は廃止を SC 25 として推奨することとした。

4.4.2 SCSI-3 関連

(1) SCSI Specification for Optical Memory Card Reader/Writer: 本件は日本で標準案作成を進めている。プロジェクト名を SCSI Optical Memory Card Device Commands(OMC)に変更要求し, FCD, DIS へ進めることが認められた。

(2) その他のプロジェクトの進行

1) NWIP-CD-DIS: CAM3, SES, SCC-2

2) ブラジルからの NWIP 投票をチェック, 成立しない場合には Fast Track へ: SPC, SIP, SBC, MMC

3) CD, DIS 投票へ: SES, SCC-2

4) 最終出版へ: SPI, SBC SMC Fast 20, SCC

4.4.3 ファイバチャンネル関連

(1) NWIP 提案

FC-FP, FC-FG, FC-AL, FC-SB

Category 7 ケーブルによる FC-PH (独より提案)

(2) 最終出版へ

FCP, FC-SB, FC-SW, FC-PH-2, FC-PH-3, FC-GS

(3) プロジェクトのキャンセル

FC-LE

4.5 WG 1 と WG 3 の共同プロジェクト

CCCB と SOHO におけるケーブリングについて, WG 1 と WG 3 が共同で進めることとなり, 89-01 の国際会議を同一場所, 時間で行うことなどが決議された。

5. 今後の開催予定

1999-06-28/07-03 ベルリン(独), SC 6, SC 26 との同時開催を希望

SC 26 (Microprocessor Systems / マイクロプロセッサシステム) 総会報告

SC 26 専門委員会

委員長 脇村 慶明(NTT)

E-mail: wakimura.yoshiaki@nslab.ntt.co.jp

1. 開催場所: 東京(日本)

2. 開催期間: 1998-5-29/30

(1998-5-28 SC 25/WG 4 との Joint Meeting)

3. 参加国数/出席者数: 4 カ国 / 15 名

議長(R.L.Pritchard, 米), 幹事(藤崎, 中島(NEC)), ポーランド(1), 英(1), 米(1), 日(8: 脇村(NTT), 浪本(更芝), 川村(日本 DEC), 田島(電総研), 森(沖電気), 平野(工技院), 東條, 安藤(電子協)), 書記(1)。

なお, 参加国が 4 カ国となり, 最終的な決議は文書による投票を行う。

(SC 25/WG 4 との Joint Meeting: 5 カ国 19 名)

SC 26 から議長, 幹事含む 9 名(日本 5 名), SC 25/WG 4 から議長, 幹事含む 6 名(日本 3 名), SC 26 と SC 25/WG 4 のリエゾンメンバ 2 名(日本 1 名), SC 6 の議長, IEC から 1 名)

4. 議事内容

4.1 プロジェクトの状況

- (1) IEC 821 (VMEbus) : 改版が近く出版される。
- (2) DIS 15776 (VME64) : Fast-Track 投票で承認。コメント処理完了。
- (3) DIS 13961 (Scalable Coherent Interface) : 訂正版のドキュメントを提出済 (1997.12.22)。出版準備中。
- (4) DIS 14575 (HIC:Heterogeneous InterConnect) : 最終ドキュメント提出済。出版準備中。
- (5) DIS 15057 (Futurebus+ -Physical Layer and Profile Specification) : 提案国の米国からドキュメントの取り下げの提案があり承認された。
- (6) DIS 15058 (VXIbus) : IEEE で改版されたものが近く新規に提案されるため本規格は取り下げられた。
- (7) DIS 15205 (SBus) : 最終ドキュメント提出済 (1997.12.31)。出版準備中。

4.2 SC 26 の今後の進め方

4.2.1 スコープの見直し

- (1) SC 26 のスコープの見直しを行い承認された。
日本から将来の SC の統合を睨んでスコープの大幅な見直し提案を行ったが、SC 統合時に再度検討することとなった。
- (2) Technical Direction : Networking & Interconnect のスコープについて、米国からタイトルの中に “Microprocessor Systems” を追加する提案がなされ、日本からはタイトルはそのまま記述の中に “Software-Hardware interface” を追加する提案をした。
まずは米国案で JTC 1 に提案することになった。

4.2.2 SC の統合について

- (1) SC 26 が統合 SC の WG になる案について、独、英、米、日は賛成、ポーランドは SC 26 が WG になると国の支援がなくなり参加できなくなる。
- (2) 日本から、システムインタフェースを分類整理しこれを基に第一段階として技術的に近い SC 25 と SC 26 が統合した際の WG 構成を提案した。米国から最初から 3 つの SC の統合を図りたいという意見があり、今後基本的には 3 つの SC の統合を目指すことになったが、日本提案について SC 26 各国に意見照会をかけることになった。
- (3) SC 25/WG 4 との Joint Meeting の有効性を確認し今後も継続することで合意した。

4.3 標準仕様のレビュー-(4年目のプレレビュー-)

- (1) IEC 822 : 1988, VSB Parallel Sub-system Bus : 出席各国 承認。
- (2) IEC 559 : 1989, Binary Floating Point Arithmetic : ポーランド棄権、他 3 国 承認。
- (3) IEC 975 : 1989, MUFOM : 出席各国 承認。
- (4) IS 10857 : 1994, Futurebus+ -Logical Protocol specification : ポーランド、米 承認、日、英 棄権。
- (5) IS 10861 : 1994, Multibus II : 出席各国 承認。
- (6) IS 13213 : 1994, Control and Status Register (CSR) : 出席各国 承認。

4.4 活動報告

- (1) 出席各国から各国の SC 26 の活動状況について報告があった。
日本からは SC 26 の今後の進め方の議論を実施してきたことに加え、STbus (Synchronous Split Transfer type system bus) について JIS 化を完了し、Fast tack 投票に入った旨の報告をした。
- (2) リエゾン報告として、SC 6/WG 3 について Mr. Robinson(米)から、また、SC 25/WG 4 について川村善久氏から報告があった。

5. Joint Meeting 議事内容

5.1 SC のスコープおよびプロジェクトの概観

- (1) SC 25/WG 4 から 4 つのプロジェクト、FDDI, SCSI, HIPPI, FC について紹介があった。
- (2) SC 26 からスコープ、主要プロジェクト(バス、浮動少数点形式、CSR, SCI, HIC)および現状の課題について紹介した。
- (3) IEEE における LAN (IEEE 802.3 イ-サネット)の開発状況の報告があった。
- (4) SC 6 から WG 1 (デ-タリンク層)、WG 3 (物理層)、WG 6 (私設通信網)、WG 7 (ネットワークおよびトランスポート層)の紹介があった。
- (5) IEC/TC 100 (オ-ディオ、ビデオ、マルチメディアシステム)から IEEE 1394 (高速シリアルバス) 関連の標準化活動状況について報告があった。

5.2 協力関係の審議

現状、両 SC でオ-バラップしているスコープやプロジェクトは多くはない。人的リソースのオ-バラップがあり、同時期に同場所で会議を開催することは有効である。技術の進歩によって SC 25/WG 4 と SC 26 の間の境界は変化してきている。

以上の認識に基づき、物理的、心理的に有効と考えられるため、今後、Technical Direction : Networking & Interconnect を構成する 3 つの SC は、まず最初のステップとして Co-located Meeting を開催していくこととし、次のステップとして統合 SC に向け WG 構成やスコープの見直しを議論していくことになった。

6. 今後の会議予定

1999-06-28 の週 : ベルリン(SC 6, SC 25 との Co-located Meeting と SC 26 の総会を同時期開催)

SC 26 総会については一昨年来ポーランドから開催希望が上がっているが、Co-located Meeting に引っ張られて今回もポーランド開催が見送られた。

SC 28 (Office Equipment / オフィス機器) 総会報告

1. 開催場所: ブジ奥斯(ブラジル)

2. 開催日時: 1998-05-18/22

3. 参加国数/出席者数: 4カ国/17名

米(3), 独(2), ブラジル(5), 日(7: 山田尚勇(HoD, 中京大), 小濑弘明(富士ゼロックス), 竹信秀俊(キャノン), 伊藤丘(コニカ), 伊藤哲也(ミノルタ), 稲垣敏彦(富士ゼロックス), 田中精一(シャープ))

4. 議事内容:

4.1 各課題の検討状況

(1) 他のTCからの検討要請課題

a) TC 171のDIS 12653-1と-2

テストチャートをスキャナー評価に用いるという規格であり, 事務機器分野への適用も考慮されているおり, かつ独提案のDIS 15775にもフィードバックすべき内容が多く, SC 28としてはその旨をTC 171へ通告し, リエゾンを通じて情報交換を行うこととした。

b) IEC/TC100のIEC CD 61966-8

カラーレスキャナーの機器校正の規格であり, SC 28のスコープと重なるところも多く, 現在設定されているリエゾンを通じて更なる情報交換を行うこととした。

(2) 発行予定の規格文書

以下の4件の規格について, それぞれの最終チェックを完了し, ISとしての発行手続きに入ることが決議された。

a) DIS 14473

スキャナーの仕様に関する規格であるが, 準備していた最終文書に対して新規なコメントが独より入り, 修正作業をその場で実施した。参加各国の承認を得て, 最終のDraft および Disposition of Comments とし SC 28へ提出した。

b) DIS 10561

プリンタの規格改訂版(規格の適用範囲を“全てのプリンタ”から“シリアルプリンタに限定(ページプリンタを除外)”することが目的)につき, ブラジルのSC 28事務局が, 改めて全てを網羅した最終原稿を準備し, これの最終確認を実施。

c) DIS 13660

画質評価に関する規格であるが, この1年ほど進捗が停滞していたが, 仮の校正値を掲載し, ISとして発行することとした。

d) DIS 14545

複写機の生産性測定方法に関する規格であるが, 既に2年ほど前に修正作業を完了していたが, 印刷物でしかなかったものを最終的な電子文書としても書式を整えることが出来た。

4.2 Fast Track Procedure matter

(1) カラーテストチャート規格(DIS 15775)

今回の会議では, 独より予想もしない論法(BRMの結果は無効で, DIS投票が優先される)で98年3月のBRMの結果を否定する反論が為され, 最終的にはJTC 1の判断を仰いだ, 「独側の言い分が正しい」という日本にとっては非常に残念な結果となった。

生産並びに消費の主要国の反対にも関わらず, 無関心国NBをも含めた単なる多数決の投票で国際規格が成立してしまうという問題点は棚上げにされ, 議長からは規格に賛成する方向で審議を進めるようにとの勧告が為された。

日米並びにブラジルとしては, 判定あるいは審議経過に対しての疑義を提出する姿勢を強硬に打ち出すことも念頭に入れつつ交渉した結果, 規格内容に関しては独から大幅な譲歩案を引き出すことに成功した。BRMは何であったのかという不満は依然として深い, 規格がIS化されるという前提で, 遅くとも98年10月迄の期間内で, 今回の審議結果に沿って, 審議を継続することとなった。

(2) FAX規格(DIS 15404)

日本側からは, CIAJ作成の「廃案要請」を提出し, 「BRM結果に基づいた提案文書が長期間に渡って独より全く出なかったため廃案とする」と説明したが, 会議の席上, 独より修正規格が提出され, 議長からも審議を継続すべきとの判断が下された。

日本側としてはBRMでの合意事項が全てキャンセルされたと解釈することは全く理解に苦しむことではあるが, 上記の(1)に記載された如く, それがJTC 1の判断であり, 議長からはこの判断は従わざるを得ないものであるとの解釈と指示が為された。

最終的には, BRMの期間を延長し, 今回独が提案した修正文書を元に, 98年9月まで審議を継続することとなった。

4.3 新テーマ(New Work Items)について

昨年提案されたテーマにつき, 次のように処理することが決議された。

(1) Colour performance Profiles: 継続

(2) Fidelity DIN Chart: 終了

(3) Electric version: 継続

(4) Additional applications: 継続

(5) End to end image system performance evaluation: 取り下げ

(6) 2nd Edition 13660 banding: 継続(テクニカルレポートにするか規格にするかの検討を行う)

(7) 2nd Edition 13660 colour: 新NP(“Attributes of image quality to visual perception”として新NP提案)

- (8) Addendum of 13660(calibration) : 継続
- (9) Ink jet technical report : 終了 (No Action)
- (10) Reuse of Office Equipment : 期間を 1999 年迄延ばして継続
- (11) Extension of 14473-2(scanner) : 来年 Working Draft を作成
- (12) Equipment handling of intellectual property : 取り下げ
- (13) Network equipment and workstation : 取り下げ
- (14) Man-machine interfaces "Ergonomics" : 取り下げ
- (15) Office Equipment to be applicable for electronic commerce and payment : 継続
- (16) Print Quality Attributes for Machine Readable Postal Indica : 新 NP

4.4 Review of SC 28 Membership

現在, SC 28 の P メンバーはアルゼンチン, ブラジル, 仏, 独, 伊, 日, ポーランド, ルーマニア, 米の 9 カ国で, O メンバーは 7 カ国である. スイス並びにスウェーデンが「興味が無くなった」ということで辞めた.

NP の審議を開始するためには 5 カ国の積極的な参加申し出が必要であり, 参加国数の減少は大きな問題となっている. 従って, メンバーを増やすための施策が求められる.

4.5 今後のアクション

今回の会議のフォローとして, 日本の SC 28 国内委員会が, 今後取るべきアクションは, 次の通りである.

(1) Fast Track Procedure の問題点の JTC 1 への指摘

今回独が主張した「一度 DIS 投票で賛成承認された規格案は, BRM の場では否決することが出来ない」という論法は, Fast Track Procedure のルール上でも疑問が残るところであり, 今後類似のケースが生じた場合, 日本側の対応にも大きな影響を与えるものである.

すなわち, 一旦この Fast Track を利用して提案された規格案は, その規格内容の意味や問題点を正確に掴めない(例えば事務機器の生産や消費の当事国でない場合など)まま, 多数決により賛成承認されてしまった場合は, 無条件にその提案が国際規格になってしまうという事態が頻発する恐れがあることである.

日本側としては, 今回の独の主張に問題が無いということであれば, 将来的には, Fast Track によって提案された問題規格案に対しては, P メンバー各国に対して十分なロビー活動を行い, 投票前に廃案に持ち込む体制の構築が必要となってくる.

従って, 今後の審議の進め方にも少なからぬ影響を与えるケースでもあり, 今回の Fast Track の手続き上の疑義は, JTC 1 等へ問題提起を行い, 曖昧な点を明らかにしておく必要があると考えている.

(2) カラーテストチャート並びに FAX 規格の審議継続

チャートについては 98 年 10 月迄, FAX については 98 年 9 月迄, 審議を継続することとなったため, これらのフォローを積極的に継続する必要がある.

(3) 新規 NP についての検討継続

昨年の Portland 会議で提案された NP について絞り込みが実施され, 今後は以下の各項目について日本側の担当 WG を決めて, 検討を開始する必要がある.

“Colour Performance Profiles”

“Print Quality Requirements for Machine Readable Franking Marks”

“Method for specifying image reproduction on any colour device with digital and analogue test charts”

“Method for optimizing image reproduction” a method to measure a common print quality defect referred to as “banding”.

(4) 来年開催される SC 28 国際会議 (日本がホスト国) の開催準備

開催期間は 1999 年 5 月 17 日 ~ 21 日, 開催場所については「横浜」を提案したが, 詳細を更に詰める必要がある. ブラジル事務局からは会議場での PC・プリンター・複写機・作業者について要求を受けている. 遅くとも 1998 年 10 月には決定し, 案内を送付する必要がある.

5. 今後の開催予定

1999-05-17/21	横浜 (日)
2000-05	開催地未定 (独)

SC 29 (Coding of Audio, Picture, Multimedia and Hypermedia Information / 音声, 画像, マルチメディア, ハイパーメディア情報符号化) 総会報告

SC 29 専門委員会

幹事 渡辺 裕 (NTT)

E-mail : hiroshi@nttvdt.hil.ntt.co.jp

1. 開催場所 : ベルリン (独)

2. 開催期間 : 1998-07-13/15

3. 参加国数/出席者数 : 17 カ国 / 32 名

議長 (安田, 日本), 事務局 (広瀬, 日本), WG 1 コンピーナ, WG 11 コンピーナ, WG 12 コンピーナ, AGM コンピーナ,

P メンバー : 米 (5), 韓国 (5), 独 (4), 日 (3 : 渡辺 (NTT), 川村 (日本 DEC), 滝川 (NTT ソフトウェア)), ベルギー (1),

加(1), チェコ(1), フィンランド(1), 仏(1), 伊(1), ノルウェー(1), スウェーデン(1), スイス(1), 英(1), アイルランド(英に委任), イスラエル(米に委任)

Oメンバー: ハンガリー(1)

Lメンバー: ITU-R(1)

4. 議事内容

4.1 各WGのプロジェクト

(1) Work Itemの進展

WG 1 関連では FDIS 段階に進む項目が 1 件, FPDAM が 1 件, CD が 4 件, WG 11 関連では出版が 4 件, FDIS が 6 件, FDAM が 2 件, FPDAM が 3 件, CD が 1 件, PDAM が 6 件, WG 12 関連では出版が 1 件, CD が 1 件承認された。賛成 15, 反対 0, 棄権 1 (独, reference software は informative であるべきとの主張)

(2) Programme of Workの修正

- 1) 13818-1/AMD 6 (MPEG-2 System の追加) 4:2:2 Profile@HL と AAC 用のバッファモデルの記述の追加。
- 2) 13818-2/AMD 5 (MPEG-2 Video の追加) 4:2:2 Profile@HL を導入。HDTV 製作環境用。
- 3) 13818-4/AMD 2 (MPEG-2 Conformance Test の追加) AAC に対応するためのシステムターゲットデコードの修正。
- 4) 13818-6/AMD 1 (MPEG-2 DSM-CC の追加) データ放送に必要な仕様。
- 5) 14496-4/AMD 1 (MPEG-4 Conformance Testing の追加) MPEG-4 Version 2 のための Conformance Testing。
- 6) 14496(MPEG-4)のタイトル変更: "Very-low bitrate audio-visual coding" から "Coding of audio-visual objects" へ。対象が低いビットレートだけでなく放送局用もカバーすることと, オブジェクト単位の符号化, 操作である特徴を反映させたものにするため。

全会一致。

(3) 2nd Editionの出版

13818-1 (MPEG-2 Systems)と 13818-2 (MPEG-2 Video) は Amendment や Corrigendum が多くあり, 解読に不便なので, 13818-1/AMD 6 の出版時までの修正や追加を含む 2nd Edition を作ることにした。全会一致。

4.2 プロジェクトエディタの指名

日本からは 14496-2/AMD 1 (MPEG-4 Version 2)に中屋雄一郎氏(日立)が, また 13818-1/AMD 6 (MPEG-2 Systems, 4:2:2 Profile@HL)に田原勝巳氏(ソニー)が任命された。全会一致。

4.3 IGBT との関係

Dr. Thomas Casey (英) を JTC 1/Imaging and Graphics Business Team (IGBT) の第 1 回 Orlando (米) 会合に SC 29 代表として派遣することを決めた。また, 第 45 回 SC 29/WG 11 会合 (1998-10-12/16, Atlantic City (米)) と同時に予定されている IGBT のシンポジウムの一部あるい

は全部を Atlantic City に招聘する意思のあることを伝えることにした。全会一致。

4.4 SC 29 IPR ポリシー

提案技術が標準に採用される前,あるいはその時点で,著作権を無料あるいは妥当な価格で提供するという各参加機関の声明をできるだけ受け付けて作業を進めるというポリシーを作成, SC 29 Web site に置くことにした。標準の使用権料の高騰を避けるため,特に独が執着。全会一致。

4.5 SC 24 と VRML

Ms. Katheleen Rattell (米) を SC 24 への SC 29 リエゾン代表に任命した。SC 24 と SC 29 の Officers レベルの合同会議 (1998-10-12 の週, Atlantic City (米)) の開催を SC 24 に提案するよう, Ms. Katheleen Rattell に指示した。全会一致。

4.6 IS の Free Availability

FDIS 投票の開始後即, FDIS と IS の電子媒体での販売を要求することにした。さらに, 電子的に標準を販売する形態について JTC 1 と各 JTC 1 NBs で検討するよう JTC 1 に要求することにした。また, 14496 (MPEG-4) の全パートと, 14495-1 (JPEG-LS baseline), 14495-2 (JPEG-LS extension) を FDIS 投票の開始時点で, 又, 13522-6 (MPEG-6) をただちに無償提供することを要求することにした。迅速な実施のためこれらの勧告の Letter Ballot での審議を JTC 1 に要求することにした。賛成 15, 反対 1 (独, 理由は DIN の収入が出版物販売収益に強く依存しているため)。

4.7 リエゾン

カテゴリー A 2 件 (INTELSAT, SMPTE), カテゴリー C 3 件 (WG 1-DIG, WG 12-DVB-MHP, WG 12-ATSC) の設立を承認した。EPO とは IPR の活動が終了していないことからカテゴリー B リエゾン要求を受けないことにした。菊池義浩氏 (東芝) を ITU-T SG16/Q.11 への SC 29 リエゾン代表として任命した。全会一致。

4.8 IEC TC 100

SC 29 は, JTC 1 の代表と IEC/TC 100 との間で予定されている合同会議に JTC 1 代表として参加しないことにした。また, この会議の結果を JTC 1 議長は SC 29 セクレタリアートに提供するよう要求することにした。

SC 29 は "Multimedia" という用語に対する SC 1 のコメント (SC 29 N 2629) を JTC 1 と IEC/TC 100 との合同会議に出席する JTC 1 代表に送ることにした。

4.9 次期議長

渡辺裕 (NTT) を次期 SC 29 議長として支持することを承認。全会一致。

5. 今後の開催予定

1999-03-22/24 ソウル(韓国)

1999-12-13/15 ハワイ(米)

6. その他

SC 29 総会は、今回も全ての文書は電子的 (HTML, Word, PDF ファイル) に配布され、PC プロジェクタを駆使した効率的な会議運営であった。

SC 32 (Data Management & Interchange / データベース管理サービス) 総会報告

SC 32 専門委員会

幹事 正井 一夫 (日立製作所)

Email: masai_k@soft.hitachi.co.jp

1. 開催日時: 1998-07-10

2. 開催場所: ブリスベン (豪)

3. 参加国数 / 出席者数: 11 カ国 / 40 名

豪(3), 加(5), 米(10), 仏(1), 英(8), 独(1), 蘭(1), ノルウェイ(1), ブラジル(1), 韓国(2), 日(7: 米田茂(日立), 正井一夫(日立), 芝野耕司(東京外国語大), 田中章司郎(島根大), 鈴木健司(東京国際大), 森田勝弘(日銀), 堀内 一(東京国際大))

4. 主な勧告とその内容

4.1 議長の指名

SC 32 の議長として US の Bruce Bargmeyer 氏を承認した。正式に JTC 1 へ持ち上げることにした。任期は、3 年の予定。

4.2 WG 編成とその Convener の指名

WG 1: Open-EDI Mr. Hannu Pelkonen (Finland)

WG 2: Metadata Mr. Eliot Christian (USA)

WG 3: Database Languages

Mr. Stephen Cannan (Netherlands)

WG 4: SQL Multimedia & Application Packages

Prof Kohji Shibano (Japan)

WG 5: Remote Database Access (RDA)

Mr. John Hadjioannou (United Kingdom)

4.3 WG 5 の名称

WG 5 が名称として Distributed Database を使用したいと申し入れたが、US 中心に名称が広義過ぎるとのクレームがあり、NB 投票を実施し、日本、韓国以外の反対で否決された。仕方がなく、WG 5 に以下のその他名称の提案をさせ、NB 投票をした。

- Distributed Database Access and Management
- Multiserver Database Access and Management
- Multiserver Database

その結果 Distributed Database Access and

Management 5, None 6 (日本, 米国他) で名称を決定することができず、次回の日本での総会までに名称を再度検討してくることになった。それまでは、現状の RDA をそのまま使用し続けることになる。

4.4 SC Secretariat

SC Secretariat は、現状の Marisa Topping 氏の後を US が Douglas Mann 氏の組織で引き受けることになった。

5. 今後の予定

1999-05-28/29 松江市(日本)

各 WG は、上記期間の週に会議を開く。

2000-03 アメリカ

次回の総会については、長らく日本で開催していないこともあり、日本が引き受けることで承認された。場所は、東京とか横浜などの大都市よりはなかなか訪れることがない地方が良いということもあり、島根県松江市の国際会議場である「くにびきメッセ」で実施する。この場合、US など日本に午後到着する便を使用すると一泊しないと松江に到着できないし、逆に午前便で帰国するヨーロッパ方面は、途中で一泊しないと帰国できない。不便さはあるものの、地方での開催の希望は強く、紹介を兼ねたプレゼンを実施したが、おおむね歓迎の方向である。

次回の総会に於いては、その前の週の金曜日(1999-05-21)に SC 32 Working Group Tutorial を実施することになった。これは、SC32 の各 WG を一般に向けて公開する方向であり、日本としても関連する情報処理学会や電気通信学会に参加を呼びかけることを検討する。

6. 感想

今回の総会は、第 1 回であり、各 WG とも WG としての Scope を決めることがポイントであり、NWI が提出される所までいたっていない。したがって議論となった項目は、WG 5 の名称の決定だけで、特に大きな物がない。割合すんなり議事が進行し、土曜日はキャンセルとなった。

幹事を引き受け、次回を日本で実施することもあり、初めて総会に出席したが、各 WG に閉じた議論が多く、総会で反対を唱える物がないのが実態である。前日に意識合わせの会合をしたにもかかわらず、議論となることが分かっている項目については、代替案を含めた明確な方針を決めておかないと総会の中では、時間がなく、日本としての狙いを戦略的に反映した投票結果を得られないと痛感した。

SC 33 (Distributed Application Services / 分散アプリケーションサービス) 総会報告

SC 33 専門委員会

委員長 浅野正一郎 (学術情報センター)

1. 開催場所：ブリスベン (豪)

2. 開催期間：1998-07-08/09

3. 参加国数 / 出席者数：9 カ国 / 20 名

米 (6: 議長, ITU ラポータ, 事務局 2 を含む), 英 (5), 豪 (2), 仏 (1), ノルウェー (1), フィンランド (1), 中国 (2), 韓国 (1), 日本 (1: 浅野 (学術情報センター))

4. SC 33 総会の概要

JTC 1 仙台総会で, SC 33 のプロジェクトを JTC 1/SC 6, SC 7 及び ITU-T に移管することが決議 (Resolution 46-1) されているが, これを受けて, SC 33 の Convenors, Rapporteurs, Project Editors 及び Liaison Representatives の全てを移管するための手続きが, 今回決議 4 から 14 としてまとめられた。

5. 審議結果

- (1) CD 投票 1 件が SC 7 へ移管された (決議 4)。
- (2) Final CD/FDIS 投票 3 件が SC 7 へ移管された (決議 5)。
- (3) 予定されている CD/PDAM/PDTR 会合 1 件が SC 7 へ移管された (決議 6)。
- (4) 予定されている中間会合 3 件が SC 7 へ移管された (決議 7)。
- (5) ITU-SC 7 (ODP) 並びに OMG との RIGON が SC 7 へ移管された (決議 8)。
- (6) SC 33 が抱えたプロジェクトのメンテナンスの処理が決定した (決議 9, SC 33 N 241)。
本件については, 主に SC 6 と ITU-T への移管に付随するものであり, 過去にキャンセルされたプロジェクト (完了を含む) についても, プロジェクトは移管することとされている。
- (7) ITU-T SG7 との合同会合が承認された (決議 10, SC 6 関連)。
- (8) CD/PDAM/PDTR/DTR 投票 7 件が SC 6 へ移管された (決議 11)。

(9) Final CD/Final PDAM/FDIS 投票 25 件が SC 6 へ移管された (決議 12)。

(10) CD/PDAM/PDTR/DTR 会合 4 件が SC 6 へ移管された (決議 13)。

(11) ITU-T SG7 との合同会合 (決議 14, 7 件)

(12) Directory Encoding のプロジェクト分割 (決議 15)

ISO 9594-5 (DIR Protocol Spec. 2nd edition), ISO 9594-6 (DIR Attribute Types 2nd edition) に, ISO Character Set を使用する Encoding のための FPDAM (それぞれ FPDAM 5, FPDAM 6) の作成を目的とする分割であり, SC 6 にその旨要求するものである。

(13) 26 件の標準の定期見直しが行われた (決議 23)。

FDT の ESTELLE (ISO 9074-1989) が Withdraw された。

(14) ASN.1/1990 に defect が多数あるために, ASN.1/1997 を推奨することとした (決議 24)。

6. その他

WG 2 (Directory), WG 9 (E-LOTOS) は出席が無く, 特に E-LOTOS については混乱した。

WG 9 は, JTC 1 仙台総会で SC 6 が引き受けないためにキャンセルとされたが, その後, WG 9 グループが意見交換の結果, 存続を希望する旨の情報が非公式に寄せられた。8 日の総会開始時点では, 文書も提出されておらず, 本件の確認すらできない状態であった。

その後, 事務局 (ANSI) に公式のメッセージが届けられ, SC 7 が引き受けを表明したことから, 急遽, SC 7 への移管プロジェクトに E-LOTOS がのった。

JTC 1 Plenary 及び今後の運営に波紋を残さなければ良いと念じる。

7. 感想

事務的な総会であった。SC 7 へ移管される ODP が並行して行われているが, 出席者は相変わらず少ない。スムーズな移管は恐らく大丈夫であろうが, これとて早期のプロジェクトの終結を目的として移管するのであり, この通り進捗することを念願している。

尚, 英国は P メンバーであるが SC 6 への移管プロジェクトについては positive ではなく, カナダは SC 33 ですら 0 メンバーとなっている。早期の終結が必要な情勢である。

< 1998 年度 情報規格調査会の表彰 >

本学会情報規格調査会では、平成 7 年度より標準化功績賞・標準化貢献賞の 2 つの表彰制度を設けています。標準化功績賞は、長年にわたり情報規格調査会委員および所属委員会委員として、多大な功績があった方々の中から選ばれます。また、標準化貢献賞は、最近の数年間において、所属委員会委員として、顕著な貢献があった方々の中から選ばれます。

なお、本学会情報規格調査会規程により、平成 10 年度は 1998 年 7 月 15 日に開催された第 13 回規格総会で、受賞者に表彰状、賞牌または賞金が授与されました。



標準化功績賞



テレコム機器株式会社 浦城 恒雄氏

浦城 恒雄氏は、社団法人情報処理学会 情報規格調査会の前身である規格委員会および当調査会において、1968 年から 1991 年までの長きにわたり、規格役員ならびに SC2 と SC16 の専門委員会委員として情報技術の標準化に大きな功績がありました。

これらの業績は、当調査会ひいては我が国の情報技術標準化の進展に寄与するところが大きかったです。

バルステック工業株式会社 大石 完一氏

大石 完一氏は、我が国からはじめて日本工業規格の国際規格化や、標準媒体の国際供給化を率先推進するなど、活躍されました。

また、1972 年から現在に至る 26 年間の長きにわたり SC11 の活動に参加され、その間磁気テープ関係のプロジェクトエディタや専門委員会委員長を務めるなど、情報技術分野の標準化に大きな功績がありました。

これらの業績は、当調査会ひいては我が国の情報技術標準化の進展に寄与するところが大きかったです。



標準化貢献賞



京都大学 池田 克夫氏

池田 克夫氏は、1990 年から現在に至る 8 年間の長きにわたり、SC18 専門委員会委員長および日本語機能専門委員会委員長を務められ、委員会のまとめと国際対応に貢献されました。

株式会社 日立製作所 石川 博道氏（故人）

石川 博道氏は、1987 年から 1998 年に至る 11 年の長きにわたり、RDA 基本標準及び RDA 実装規約の開発に参加し、標準化の推進に大いに貢献されました。

また、専門委員会関係では、SC21/WG3 および SC21/WG3/RDA の委員として主導的役割を果たされました。

日本電信電話株式会社 稲垣 充廣氏

稲垣 充廣氏は、1983 年から現在までの 15 年間の長きにわたりコンピュータグラフィクス関連規格の活動に参加され、国際標準化に大いに貢献されました。特に GKS、CGM、CGI について国内での中心的な役割を果たされました。

また、専門委員会関係では長年にわたり SC24 幹事および SC24/WG1 主査として活躍されました。

奈良先端科学技術大学院大学 植村 俊亮氏

植村 俊亮氏は、JTC1 において、情報技術の国際化の重要性を認知させることに尽力されるとともに、課題の整理やプロジェクトの提案等 SC22/WG20 の立ち上げに、多大の貢献をされました。

また、専門委員会関係では 1970 年から現在に至る 28 年間の長きにわたり SC22/COBOL WG ならびに COBOL JIS 原案作成委員会等の委員として、長年にわたり活躍されました。

株式会社 東芝 内山 光一氏

内山 光一氏は、1989 年から現在に至る 9 年間の長きにわたり、アーキテクチャを記述する手法の開発、ネットワーク管理モデルの開発、ODP モデルの開発等に取り組み、国際標準化に大いに貢献されました。

また、専門委員会関係では、FDT-SWG、SC21、SC21/WG7 関連、SC22、SC29/WG12 等多数の委員会委員として活躍してこられました。

日本アイ・ピー・エム株式会社 宇野 栄氏

宇野 栄氏は、1985 年から現在までの 13 年間の長

きにわたり、コンピュータグラフィクス関連規格、特に GKS, PHIGS, PREMO 等について、国内および国際の場で大いに貢献されました。

また、専門委員会関係では、長年にわたり SC24 幹事および SC24/WG2 主査、SC24/WG6 主査として、コンピュータグラフィクスのアプリケーションプログラムインターフェース分野を中心として指導的役割を果たしてこられました。

凸版印刷株式会社 加藤 重信氏

加藤 重信氏は、1991 年から 1993 年の 2 年間、C J K J R G スタンディングセクレタリとして、文字コードの国際標準化に貢献 CJK-JRG されました。

専門委員会関係では、1981 年から現在に至る 17 年間の長きにわたり、SC2 幹事、SC2/漢字 WG 委員、SC7 委員、SC7/WG8 幹事、SC29 委員等多数の委員会に参加し活躍してこられました。

日本システムインテグレーション株式会社

富田 正典氏

富田 正典氏は、1970 年から現在に至る 28 年間の長きにわたり、SC11 の活動に参加され、その間に、日本企業が開発した 90mm フレキシブルディスク、各種磁気テープカートリッジの国際標準化を、国際会議の場でも積極的に推進されました。

また、専門委員会関係では SC11 幹事、SC11/MT-WG 主査として大いに貢献されました。

国際電信電話株式会社 蓮池 和夫氏

蓮池 和夫氏は、1987 年から現在に至る 11 年間の長きにわたり、メッセージングから文書体系、文書記述言語あるいはユーザインタフェースなど、SC18 の分野で多岐にわたる活動に参加され、その間に、SC18 幹事および SC18/WG5 主査等を担当し、委員会のまとめと国際対応に貢献されました。

日本電気株式会社 松尾谷 徹氏

松尾谷 徹氏は、1989 年から現在に至る 9 年間の長きにわたり、ソフトウェアエンジニアリング全般の国際標準化に大いに貢献されました。

また、専門委員会関係では、SC7 委員、SC7/WG7 幹事、SC7/WG8 委員および SC7/WG9 主査等として活躍されました。

富士通株式会社 森 紘一氏

森 紘一氏は、1989 年から 1997 年までは、社団法人 情報処理学会 情報規格調査会の規格役員として、また、現在に至る 9 年間の長きにわたり、技術委員会委員として当調査会の発展ならびに標準化の進展に大いに貢献されました。

富士通株式会社 和田 英穂氏

和田 英穂氏は、1977 年から 1996 年までの長きにわたり、Fortran の国際標準化および JIS 化、特に日本語文字など多バイト文字を扱う機構を国際規格に盛り込むなど、大いに貢献されました。

また、専門委員会関係では、SC22 委員、SC22/Fortran WG 主査および Fortran JIS 改正委員会委員長として長年にわたり活躍されました。

< 1998 年 9 月以降 国際会議開催スケジュール >

JTC 1	99-01-26/29, Rio de Janeiro, Brazil	SC 25	99-06-28/07-03, Berlin, Germany
SC 1	99-06-07/12, Tokyo, Japan	SC 26	99-06 , Berlin, Germany
SC 2	99-03-23/24, 未定, Japan	SC 27	98-10-27/28, Rio de Janeiro, Brazil
SC 6	99-01-16, Sydney, Australia	SC 28	99-05-17/21, Yokohama, Japan
SC 7	99-05-24/28, Curitiba, Brazil	SC 29	99-03-22/24, Rep. of Korea
SC 11	00-05-09/11, Monterey, Mexico	SC 31	98-10-27/29, Sydney, Australia
SC 17	98-10-21/23, Berlin, Germany	SC 32	99-05-28/29, Matsue, Japan
SC 22	98-08-24/28, Copenhagen, Denmark	SC 34	98-11-9-13, San Antonio, US
SC 23	99-10 , 未定, China	SC 35	未定
SC 24	99-06-11, Rep. of Korea		

< 声 の ペ ー ジ >

JIS 漢字 雑 感

浦城 恒雄 (テレコム機器株式会社)

E-mail : uraki@cm.hitachi-telecom.co.jp

去る6月国語審議会は、常用漢字以外の漢字の略字(常用漢字に準じた略体化)の使用を大幅に制限する中間報告を発表し、「鷗外から・外へ」などの見出しで新聞などで話題になった。

1978年制定のJISでは当用漢字の表外字はいわゆる康熙字典体をベースとした。1981料理年に漢字制限色の強い当用漢字が廃止され、常用漢字表が公布された。審議過程では表外字について表内字に準ずる略体化も議論されたが、「・・当面特定の方向を示さず・・」と明記された。にも関わらず1983年のJIS改定において参加した国語学者が相当の漢字制限論者であったために表外字の略体化が進められ、その結果多数の文字の字体の変更(・から鷗など)に加え、22文字を第1水準と第2水準の間で入れ替える(檜と桧など)という互換性無視の変更をおこない、当時の漢字ユーザを混乱させると共にその後の印刷の世界と電子テキストとの間の亀裂を産んでしまった不幸な過去を思い出す。

情報規格調査会の活動ではないが、INSTACの符号化文字集合調査研究委員会で、過去のいろいろな反省の上に立って新JIS漢字を策定中である。そのご努力を多とするが、多少の懸念もある。一つはUnicodeに対する歴史的な軽視である。過去のいきさつから多少は理解できるが、今やWindowsNTや一太郎では内部コードとして採用され、Windows98でもサポートしている。JIS X 0212(この規格も軽視している)の補助漢字文字セットを取り入れており、現在より拡大した文字セットを望むユーザにとってはシフトJISからUnicodeへの変更意欲がわく。さらに拡張としてサロゲートペア方式による文字種の拡大や言語指定、異体字指定なども検討されており、もっと関心を持ち、積極的に参加すべきと思う。

もう一つの懸念はシフトJISの現実の軽視である。シフトJISのインプリメンテーションの多くはIBMなどが決めたJIS X 0208以外の文字セットを含んでおり、とか鄧小平とか内字扱いで使われている。デフォルト規格としてのシフトJISは重視し、X 0208以外の文字を禁止して現在検討中の第3水準、及び第4水準をシフトJISに取り込もうとしているが、これはまさに1983年の悲劇を繰り返す可能性がある。シフトJISを決めたマイクロソフト自身が今や離れていこうとしているのに、インプリメンテーションの早期化を狙う余りシフトJISに執着するのは問題があると思う。

ハードウェア標準化に思う

大石 完一 (パルステック工業)

E-mail : k-ohishi@pulstec.co.jp

情報処理の標準化が始まった当時は、標準化対象がハードウェア重点であったが、最近のJTC1での標準化対象は、ソフトウェア主体に移行してきている。その中であって、SC11は、情報交換用磁気記録媒体の標準化を担当する数少ないハードウェア主体の標準化部隊である。そのためか、技術委員会等の課題は、ソフトウェア標準化に関連する題材が主体で、我々とは次元が違い過ぎ、中々議論に入って行けないもどかしさを感じている。

この中であって、SC11不要論やSC11とSC23との合併提案が持ち上がり、久し振りのハードウェアの課題が持ち上がった感じがした。ただ、SC11不要論がSC11のPメンバーでもOメンバーでもく、情報交換用記録媒体の生産もしていない国から提案されたことの意図に疑念を抱いているが、別の見方をすれば、我々ハードウェア部隊も忘れられていなかったとも受け止められる(あるいは、邪魔者なのか?)。幸い両者とも提案に反対する国が多数を占め、存続が認められ安堵した次第である。

通信技術と情報処理技術の発展によって、情報交換用記録媒体衰退論があるが、処理速度や手軽さの点から依然、発展を続けているのが実状である。情報記録媒体については、オーディオ、ビデオ等に用いられている民生用及び放送用と、コンピュータに用とがある。前者についてはIEC(TC100/SC100B)で、後者はISO(JTC1/SC11及びSC23)で標準化を担当している。当初は、情報処理用記録媒体は、信頼性の観点から情報処理専用に開発された物が使われていたが、近年、使用目的の変化と経済的理由から民生用に開発された記録媒体を情報処理用記録に流用するケースが増えてきている。

記録様式も、以前は、民生用がアナログ記録、情報処理用がデジタル記録と物理的記録方式や記録様式が両者大きく異なっていたが、近年、民生機器のデジタル化が進んでくると両者の区別が無くなりつつある。

こうなると、パソコンに端を発してJTC1が設立されたように、ハードウェア(記録媒体及び機器相互接続)関連の標準化を独立させ、IEC/TC100/SC100BとJTC1/SC11、SC23及びSC25の一部(?)とでJTC2を設立したらどうだろうか。

< 1998年6月以降の ISO/IEC JTC 1 関係 NP, CD, DIS, IS から >

* : 本来なら NL37 号に掲載されるべき文書が漏れて
おりましたので今回掲載いたしました。

NP 投票・結果

投票/ 結果	担当/ プロジェクト No.	番号	タイトル	投票 期限/結果
* 結果	SC6/WG1	JTC1N4879	Information technology -- Telecommunications and information exchange between systems -- High-Level Data Link control -- AMENDMENT 5: Alternate Frame Delimiters	1997-11-21 JTC1N5128: 承認
* 結果	SC6/WG1	JTC1N4880	Information technology -- Telecommunications and information exchange between systems -- High-Level Data Link control -- AMENDMENT 6: Header check Sum	1997-11-21 JTC1N5129: 承認
* 結果	SC6/WG2	JTC1N4881	Information technology -- Telecommunications and information exchange between systems -- Exchange of Network Layer group composition, in support of secure multicast operation	1997-11-21 JTC1N5193: 承認
結果	SC6/WG3	JTC1N5261	Information technology -- Maintenance Revision #5 for 100BASE-T	1998-07-02 JTC1N5483: 承認
* 結果	SC7	JTC1N5055	Information technology -- Software Measurement Process Framework	1998-01-29 JTC1N5191: 承認
* 結果	SC7	JTC1N5056	Information technology -- Software Engineering Environment Services	1998-01-29 JTC1N5192: 承認
* 結果	SC21/WG7	JTC1N4875	Information technology -- Amendment to ITU-T Recommendation X.900 ISO/IEC 10760 Open Distributed Processing (ODP) -- Reference Model to Support Quality of Service (QoS) in ODP	1997-11-20 JTC1N5096: 承認
結果	SC22/WG9	JTC1N5092	Information technology -- Guidance for the use of Ada in High Integrity Systems [TR 2]	1998-02-26 JTC1N5204: 承認
結果	SC22/WG15	JTC1N5158	Information technology -- Guide for Developing User Organization Open Systems Environment (OSE) Profiles [TR 3]	1998-04-13 JTC1N5308: 否認
結果	SC23	JTC1N5281	Information technology -- DVD Read-Only Disk File System Specifications [TR 3]	1998-07-15 JTC1N5474: 承認
結果	SC24	JTC1N5112	Information technology -- PNG (Portable Network Graphics)	1998-03-17 JTC1N5264: 承認
投票	SC24	JTC1N5456	Information technology -- Virtual Reality Modeling Language (VRML) External Authoring Interface (EAI)	1998-09-17
結果	SC25	JTC1N5107	Information technology -- SCSI-3 Interlocked Protocol (SIP) (interface protocols)	1998-03-15 JTC1N5464: 承認
結果	SC25	JTC1N5108	Information technology -- SCSI-3 Primary Commands (SPC) (interface commands, command requirements)	1998-03-15 JTC1N5465: 承認
結果	SC25/WG4	JTC1N5095	Information technology -- SCSI-3 Block Commands (SBS) (Interface commands, command requirements)	1998-02-26 JTC1N5463: 承認
投票	SC28	JTC1N5457	Information technology -- Minimum information to be specified for Image Scanners -- Part 2	1998-09-17
投票	SC28	JTC1N5458	Information technology -- Addendum to IS 13660	1998-09-17
投票	SC28	JTC1N5459	Information technology -- Color performance for profiles for office devices and systems	1998-09-17
投票	SC28	JTC1N5460	Information technology -- Print quality requirements for machine readable franking marks	1998-09-17
投票	SC28	JTC1N5461	Information technology -- Method for specifying image reproduction	1998-09-17

投票/結果	担当/プロジェクトNo.	番号	タイトル	投票期限/結果
投票	SC28	JTC1N5462	Information technology -- Method for optimizing image reproduction	1998-09-17
結果	SC31	JTC1N5246	Information technology -- Radio-Frequency Identification for Item management -- Application Requirements/Transaction message Profiles	1998-06-30 JTC1N5468: 承認
結果	SC31	JTC1N5247	Information technology -- Radio-Frequency Identification for Item Management -- Data Objects	1998-06-30 JTC1N5469: 承認
結果	SC31	JTC1N5248	Information technology -- Data Notation	1998-06-30 JTC1N5470: 承認
結果	SC31	JTC1N5249	Information technology -- Unique Identification of RF Tag and Registration Authority to Manage the Uniqueness	1998-06-30 JTC1N5471: 承認
結果	SC31	JTC1N5251	Information technology -- Radio-Frequency Identification for Item Management -- Air Interface	1998-06-30 JTC1N5472: 承認
結果	SC31	JTC1N5252	Information technology -- Application Requirements Profiles	1998-06-30 JTC1N5473: 承認

NP 承認投票 (CD/PDTR/PDAM 登録投票との併行投票)・結果

投票/結果	担当/プロジェクトNo.	番号	タイトル	投票期限/結果
投票	JTC1/WG5	JTC1N5454	Information technology -- Specification of level 3 and group select function keys in the keyboard standard ISO/IEC 9995-2	1998-09-16

NP 承認投票 (CD/PDTR/PDAM 登録・承認の同時投票との併行投票)・結果

投票/結果	担当/プロジェクトNo.	番号	タイトル	投票期限/結果
投票	SC25/WG4 25.13.11.13	JTC1N5387	Information technology -- Small computer systems Interface -- Part 351: Medium Change Commands (SCSI-3 SMC)	1998-08-21
投票	SC25/WG4 25.13.11.21	JTCN5385	Information technology -- Small computer system Interface -- Part 112: Parallel Interface-2 (SCSI SPI-2)	1998-08-21
投票	SC25/WG4 25.13.11.22	JTC1N5388	Information technology -- Small Computer System Interface -- Part 371: Enclosure Service Command Set (SCSI SES)	1998-08-21
投票	SC25/WG4 25.13.11.23	JTC1N5386	Information technology -- Small Computer system Interface -- Part 342: Controller Commands-2 (SCSI SCC-2)	1998-08-21
投票	SC31 31.15	JTC1N5405	Information technology -- Automatic Identification and Data Capture Techniques -- Barcode Symbology -- QR Code	1998-08-26

CD/PDTR/PDAM 登録投票 (NP 承認投票との併行投票)・結果

投票/結果	担当/プロジェクトNo.	番号	タイトル	投票期限/結果
投票	JTC1/WG5	JTC1N5455	Information technology -- Specification of level 3 and group select function keys in the keyboard standard ISO/IEC 9995-2 1p.	1998-09-16

CD/PDTR/PDAM 登録・承認の同時投票(NP 承認投票との併行投票)・結果

投票/結果	担当/プロジェクト No.	番号	タイトル	投票期限/結果
結果	SC25/WG3 25.13.11.17	CD14776-361 SC25N430	Information technology -- Small Computer System Interface -- Part 361: Multimedia Commands (SCSI-3 MMC) 172pp.	1998-03-20 SC25N460: 賛成 10,反対 0, 棄権 3,無回答 8
結果	SC25/WG4 25.13.11.04	CD14776-211 SC25N431	Information technology -- Small Computer System Interface -- Part 211: Interlocked Protocol (SCSI-3-SIP9) 92pp.	1998-03-20 SC25N461: 賛成 11,反対 0, 棄権 3,無回答 7
結果	SC25/WG4 25.13.11.03	CD14776-311 SC25N433	Information technology -- Small Computer System Interface -- Part 311: Primary Commands (SCSI-3 SPC) 167pp.	1998-03-20 SC25N463: 賛成 11,反対 0, 棄権 3,無回答 7
結果	SC25/WG4 25.13.11.10	CD14776-321 SC25N432	Information technology -- Small Computer System Interface -- Part 321: Block Commands (SCSI-3 SBC) 126pp.	1998-03-20 SC25N462: 賛成 11,反対 0, 棄権 3,無回答 7

CD/PDTR/PDAM 登録投票・結果

投票/結果	担当/プロジェクト No.	番号	タイトル	投票期限/結果
投票	SC27/WG2 27.07.04	CD9796-4 SC27N1876rev1	Information technology -- Security techniques -- Digital signature scheme giving message recovery -- Part 4: Discrete logarithm based mechanisms 28pp.	1998-10-09

CD/PDTR/PDAM 登録・承認の同時投票・結果

投票/結果	担当/プロジェクト No.	番号	タイトル	投票期限/結果
結果	SC2/WG2	10646-1/PDAM14 SC2N3083	Information technology -- Universal Multiple-Octet Coded Character Set (UCS) -- Part 1: Architecture and Basic Multilingual Plane -- AMENDMENT 14: Yi syllables and Yi radicals 23pp.	1998-07-31 SC2N3153: 賛成 13,反対 3, 棄権 3,無回答 17
結果	SC2/WG2 02.18.01.24	10646-1/PDAM24 SC2N3104	Information technology -- Universal Multiple-Octet Coded Character Set (UCS) -- Part 1: Architecture and Basic Multilingual Plane -- AMENDMENT 24: Thaana 4pp.	1998-08-25 SC2N3159: 賛成 15,反対 0, 棄権 3,無回答 18
結果	SC2/WG2	10646-1/PDAM25 SC2N3105	Information technology -- Universal Multiple-Octet Coded Character Set (UCS) -- Part 1: Architecture and Basic Multilingual Plane -- AMENDMENT 25: Khmer 4pp.	1998-08-25 SC2N3160: 賛成 14,反対 1, 棄権 3,無回答 18
結果	SC2/WG2	10646-1/PDAM26 SC2N3106	Information technology -- Universal Multiple-Octet Coded Character Set (UCS) -- Part 1: Architecture and Basic Multilingual Plane -- AMENDMENT 26: Burmese 4pp.	1998-08-25 SC2N3161: 賛成 13,反対 2, 棄権 3,無回答 18

投票/結果	担当/プロジェクトNo.	番号	タイトル	投票期限/結果
結果	SC2/WG2	10646-1/PDAM27 SC2N3107	Information technology -- Universal Multiple-Octet Coded Character Set (UCS) -- Part 1: Architecture and Basic Multilingual Plane -- AMENDMENT 27: Syriac 4pp.	1998-08-25 SC2N3162: 賛成 14,反対 1, 棄権 3,無回答 18
投票	SC7/WG8 07.27.02	PDTR16326 SC7N1968	Information technology -- Software project management [TR 2] 34pp.	1998-10-16
投票	SC7/WG12 07.31.02	CD14143-2 SC7N1964	Information technology -- Functional size measurement -- Part 2: Compliance assessment of software size measurement methods to ISO/IEC 14143-1:1998 20pp.	1998-10-16
投票	SC7/WG12 07.31.03	PDTR14143-3 SC7N1965R	Information technology -- Functional size measurement -- Part 3: Verification of functional size measurement methods [TR 2] 26pp.	1998-10-16
投票	SC7/WG12 07.31.04	PDTR14143-4 SC7N1966R	Information technology -- Software measurement -- Functional size measurement -- Part 4: Reference Model [TR 2] 25pp.	1998-10-16
投票	SC7/WG12 07.31.05	PDTR14143-5 SC7N1967R	Information technology -- Functional size measurement -- Part 5: Determination of Functional Domains for Use with Functional Size Measurement. [TR 3] 39pp.	1998-10-16
* 結果	SC22/WG20 22.30.02.03	CD14652 SC22N2504	Information technology -- Programming languages, their environments and system software interfaces -- Specifications for Cultural Conventions 80pp.	1997-11-07 SC22N2612: 賛成 9,反対 3, 棄権 4,無回答 7
結果	SC29/WG1 29.04.03.01	10918-3/PDAM1 SC29N2537	Information technology -- Digital compression and coding of continuous-tone still images: Extensions, Amendment 1: Provisions to allow registration of new compression types and versions in the SPIFF header 2pp.	1998-07-06 SC29N2640: 賛成 18,反対 1, 棄権 1,無回答 7
結果	SC29/WG11 29.05.02.02.0 5	13818-2/PDAM5 SC29N2519	Information technology -- Generic coding of moving pictures and associated audio information: Video, AMENDMENT 5: 4:2:2 Profile High Level 5pp.	1998-06-26 SC29N2622: 賛成 23,反対 0, 棄権 0,無回答 4
* 結果	SC32	CD15452	Information technology -- Specification of data value domains 24pp.	1998-01-16 SC32N55: 賛成 11,反対 0, 棄権 0,無回答 2

CD/PDTR/PDAM 承認投票および PDISP レビュー・結果

投票/結果	担当/プロジェクトNo.	番号	タイトル	投票期限/結果
* 結果	SC1/WG4 01.33	CD2382-33 SC1N1947	Information technology -- Vocabulary -- Part 33: Hypermedia and multimedia 37pp.	1997-10-31 SC1N2061: 賛成 10,反対 1, 棄権 0,無回答 0
結果	SC6/WG2 06.41.01.03	9542/PDAM3 SC6N10653	Information technology -- Telecommunication and Information Exchange Between Systems -- End System to Intermediate Systems Routing Exchange Protocol for use in conjunction with the Protocol for Providing the Connectionless-Mode Network Service -- AMENDMENT 3: Addition of Group Composition Information 16pp.	1997-11-05 SC6N10737: 賛成 11,反対 1, 棄権 1,無回答 4
* 結果	SC6/WG2 06.41.04.03	10589/PDAM3 SC6N10654	Information technology -- Telecommunications and information exchange between systems -- Intermediate System to Intermediate Systems Intra-Domain Routing Information Exchange Protocol for use in conjunction with the Protocol for Providing the Connectionless-Mode Network Service -- AMENDMENT 3: Extensions for group composition and related multicast routing 23pp.	1997-11-05 SC6N10738: 賛成 10,反対 1, 棄権 2,無回答 4

投票/結果	担当/プロジェクトNo.	番号	タイトル	投票期限/結果
結果	SC6/WG7 1.06.69	CD14476 SC6N10784	Information technology -- Enhanced Communications Transport Protocol(ECTP) 65pp.	1998-06-25 SC6N10909: 賛成 9,反対 0, 棄権 2,無回答 6
* 結果	SC7/WG2 07.40	CD15910 SC7N1769	Information technology -- Software User Documentation Process 64pp.	1997-12-12 SC7N1844: 賛成 8,反対 2, 棄権 1,無回答 17
* 結果	SC7/WG6 07.13.01.2	PDTR9126-2 SC7N1767	Information technology -- Software quality characteristics and metrics -- Part 2 External metrics [TR 2] 84pp.	1997-11-11 SC7N1809: 賛成 17,反対 0, 棄権 2,無回答 9
* 結果	SC7/WG11 07.19.03	CD15909 SC7N1793	Information technology -- High Level Petri Net Standard 39pp.	1998-01-06 SC7N1851: 賛成 10,反対 3, 棄権 1,無回答 14
* 結果 (3次)	SC21/WG7 21.59.02	CD13235-2.3 SC21N10789	Information technology -- Open Systems Interconnection -- Open Distributed Processing -- ODP Trading Function -- Part 2: ICS and Test Cases 200pp.	1997-05-12 SC33N29: 賛成 7,反対 3, 棄権 2,無回答 11
* 結果	SC21/WG7 21.75	CD14769 SC21N10746	Information technology -- Open Distributed Processing -- Type Repository Function 100pp.	1997-11-15 SC33N36: 賛成 8,反対 3, 棄権 3,無回答 9
結果	SC22/WG15 22.39	9945-1/PDAM5 SC22N2648	Information technology -- Portable Operating System Interface (POSIX) -- Part 1: System Application Program Interface (API) [C Language] -- AMENDMENT 5 192pp.	1998-06-02 SC22N2725: 賛成 14,反対 2, 棄権 1,無回答 5
結果	SC22/WG15 22.21.04.01.01	9945-1/PDAM7 SC22N2678	Information technology -- Portable Operating System Interface -- Part 1: System Application Program Interface (API) -- AMENDMENT 7: Advanced Realtime Extensions (C Language) 122pp.	1998-07-24 SC22N2781: 賛成 14,反対 2, 棄権 1,無回答 5
結果	SC22/WG15 22.14515-1.02	14515-1/PDAM1 SC22N2647	Information technology -- Test Methods Specifications for Measuring Conformance to POSIX -- Part 1: System Application Program Interface (API) Amendment 1: Realtime Extension (C Language) 490pp.	1998-06-02 SC22N2744: 賛成 8,反対 2, 棄権 4,無回答 8
* 結果	SC25/WG1 25.01.01.03	PDTR10192-1 SC25N405	Information technology -- Home Electronic System (HES) -- Part 1: Terminology [TR 2] 14pp.	1997-12-15 SC25N435: 賛成 15,反対 0, 棄権 1,無回答 4

投票/結果	担当/プロジェクトNo.	番号	タイトル	投票期限/結果
* 結果	SC25/WG1 25.01.04.01	PDTR10192-2	Information technology -- Home Electronic Systems (HES) -- Part 2: HES architecture -- Section 1: Introduction Section 2: Device modularity Section 3: Communication layers [TR 2]	1997-12-15 SC25N442 賛成 14,反対 1, 棄権 1,無回答 4 SC25N436 賛成 15,反対 0, 棄権 1,無回答 4 SC25N440 賛成 15,反対 0, 棄権 1,無回答 4
* 結果	SC25/WG1 25.01.04.02	PDTR10192-3	Information technology -- Home Electronic Systems (HES) -- Part 3: Application model -- Section 1: HES Application Layer Model and Services Section 3: Application model -- Model of Energy Management System for HES Section 4: Model of a Security Systems for HES [TR 3]	1997-11-30 SC25N438 賛成 13,反対 2, 棄権 1,無回答 4 1997-12-15 SC25N439 賛成 16,反対 0, 棄権 2,無回答 3 1997-12-15 SC25N437 賛成 13,反対 1, 棄権 2,無回答 4
* 結果	SC25/WG1 25.01.06.01	PDTR14762 SC25N411	Information technology -- Guidelines on requirements for Functional Safety of products intended to be integrate in a home control system [TR 2] 11pp.	1997-12-15 SC25N441: 賛成 13,反対 3, 棄権 0,無回答 4
結果	SC25/WG3 25.03.02.01-03	11802/PDAM3 SC25N426	Information technology -- Generic Cabling for Customer-Premises -- AMENDMENT 3 23pp.	1998-03-20 SC25N456: 賛成 11,反対 4, 棄権 0,無回答 7
結果 (2次)	SC25/WG3 25.03.01.05-1	PDTR14763-2.2 SC25N413	Information technology -- Implementation and operation of customer premises cabling -- Part 2: Planning and Installation [TR 3] 18pp.	1998-03-20 SC25N458: 賛成 13,反対 1, 棄権 0,無回答 7
結果	SC25/WG3 25.03.01.05-3	PDTR14763-4 SC25N414	Information technology -- Implementation and operation of customer premises cabling -- Part 4: Testing of balanced copper cabling in the horizontal- system [TR 3] 16pp.	1998-03-20 SC25N464: 賛成 8,反対 6, 棄権 0,無回答 7
結果	SC25/WG4 25.13.13.05	CD14165-141 SC25N429	Information technology -- Fibre Channel -- Part 141: Fabric Generic Requirements (FC-FG) 23pp.	1998-03-20 SC25N459: 賛成 11,反対 0, 棄権 3,無回答 7
* 結果 (4次)	SC27/WG2 27.09.04	CD10118-4.4 SC27N1696	Information technology -- Security techniques -- Hash-functions -- Part 4: Hash-functions using modular arithmetic 19pp.	1997-10-15 SC27N1839: 賛成 11,反対 3, 棄権 0,無回答 8

投票/結果	担当/プロジェクトNo.	番号	タイトル	投票期限/結果
結果	SC31/WG1 31.07	CD15417 SC31N0305	Information technology -- Automatic Identification and Data Capture Techniques -- Bar Coding -- Symbology Specification -- Code 128 25pp.	1998-06-03 SC31N0344: 賛成 18,反対 0, 棄権 0,無回答 5
結果	SC31/WG2	CD15418 SC31N0308	Information technology -- Automatic Identification and Data Capture Techniques -- EAN/UCC Application Identifiers and FACT Data Identifiers+Maintenance 7pp.	1998-06-03 SC31N0347: 賛成 18,反対 0, 棄権 0,無回答 5
結果	SC31/WG2 31.09	CD15459-1 SC31N0306	Information technology -- Automatic Identification and Data Capture Techniques -- Unique Identification of Transport Units -- Technical Standard 6pp.	1998-06-03 SC31N0345: 賛成 18,反対 0, 棄権 0,無回答 5
結果	SC31/WG2 31.10	CD15459-2 SC31N0307	Information technology -- Automatic Identification and Data Capture Techniques -- Unique Identification of Transport Units -- Procedural Standard 10pp.	1998-06-03 SC31N0346: 賛成 18,反対 0, 棄権 0,無回答 5
結果	SC31/WG3 31.11	CD15416 SC31N0309	Information technology -- Automatic Identification and Data Capture Techniques -- Bar Code Print Quality Test Specification-Linear Symbols 34pp.	1998-06-03 SC31N0348: 賛成 18,反対 0, 棄権 0,無回答 5
結果	SC31/WG3 31.12	CD15426-1 SC31N0310	Information technology -- Automatic Identification and Data Capture Techniques -- Bar code verifier conformance specification -- Part 1: Linear symbols 8pp.	1998-06-03 SC31N0349: 賛成 18,反対 0, 棄権 0,無回答 5
結果	SC32/WG2 32.06.07	CD10728 SC32N95	Information technology -- Extensions to IRDS Services Interface (second edition) 10pp.	1998-06-25 SC32N140: 賛成 7,反対 2, 棄権 2,無回答 4
結果	SC32/WG4 33.64.05	CD13249-5 SC32N41	Information technology -- Database Languages -- SQL Multimedia and Application Packages -- Part 5: Still Image 29pp.	1998-04-02 SC32N102: 賛成 5,反対 4, 棄権 2,無回答 5
結果	SC33 33.67	CD14752 SC33N115	Information technology -- Open Distributed Processing -- Protocol support for computational interactions 38pp.	1998-05-29 SC33N208: 賛成 8,反対 1, 棄権 0,無回答 4

CD/PDAM 登録・FCD/FPDAM 承認の同時投票・結果

投票/結果	担当/プロジェクトNo.	番号	タイトル	投票期限/結果
* 結果	SC2/WG2 02.20.15	CD8859-15 SC2N2946	Information technology -- 8-bit single-byte coded graphic character sets -- Part 15: Latin Alphabet 0 (Covering the EURO symbol and full support for the French and Finnish languages) 14pp.	1997-12-15 SC2N3008rev.: 賛成 16,反対 6, 棄権 0,無回答 13

投票/結果	担当/プロジェクトNo.	番号	タイトル	投票期限/結果
* 結果	SC2/WG2 02.18.01.13	10646-1/PDAM13 SC2N2945	Information technology -- Universal Multiple-Octet Coded Character Set (UCS) -- Part 1: Architecture and Basic Multilingual Plane -- AMENDMENT 13: CJK unified ideographs with supplementary sources 438pp.	1997-12-15 SC2N3004: 賛成 23,反対 0, 棄権 1,無回答 11
結果	SC2/WG2 02.18.01.21	10646-1/PDAM21 SC2N3017	Information technology -- Universal Multiple-Octet Coded Character Set (UCS) -- Part 1: Architecture and Basic Multilingual Plane -- AMENDMENT 21: Sinhala 4pp.	1998-06-19 SC2N3124: 賛成 20,反対 0, 棄権 3,無回答 13
* 結果	SC2/WG2 02.18.01.16	10646-1/PDAM16 SC2N2969	Information technology -- Universal Multiple-Octet Coded Character Set (UCS) -- Part 1: Architecture and Basic Multilingual Plane -- AMENDMENT 16: Braille Patterns 8pp.	1998-02-06 SC2N3023: 賛成 24,反対 0, 棄権 1,無回答 11
* 結果	SC18/WG4 18.11.01.07.08	10021-7/PDAM1	Information technology -- Message Handling Systems (MHS) -- Part 7: Interpersonal Messaging System -- AMENDMENT 1: Additional Security Features 16pp.	1997-10-19 SC33N46: 賛成 25,反対 0, 棄権 4,無回答 2
* 投票	SC29/WG11 29.13.06	CD14496-6 SC29N2296	Information technology -- Very-low bitrate audio-visual coding -- Part 6: DSM-CC Multimedia Information Framework (DMIF) 107pp.	1998-03-07 SC29N2490: 賛成 20,反対 3, 棄権 1,無回答 3

FCD/FPDISP/FPDAM 承認投票・結果

投票/結果	担当/プロジェクトNo.	番号	タイトル	投票期限/結果
結果	JTC1	9995-3/FPDAM1 JTC1N5126	Information technology -- Keyboard layouts for text and office systems -- Part 3: Complementary layouts of the alphanumeric zone of the alphanumeric section 6pp.	1998-05-01 JTC1N5349: 賛成 14,反対 0, 棄権 1,無回答 12
投票	SGFS	FPDISP10611-1 SC33N190	Information technology -- International Standardized Profiles AMH1n -- Message Handling Systems -- Common Messaging -- Part 1: MHS Service Support (third edition) 46pp.	1998-09-14
投票	SGFS	FPDISP10611-3 SC33N191	Information technology -- International Standardized Profiles AMH1n -- Message Handling Systems -- Common Messaging -- Part 3: AMH11-Message Transfer(P1) (third edition) 45pp.	1998-09-14
投票	SGFS	FPDISP10611-5 SC33N193	Information technology -- International Standardized Profiles AMH1n -- Message Handling Systems -- Common Messaging -- Part 5: AMH13-MS Access(P7) (third edition) 55pp.	1998-09-14
投票	SGFS	FPDISP10611-6 SC33N194	Information technology -- International Standardized Profiles AMH1n -- Message Handling Systems -- Common Messaging -- Part 6: AMH15-MS 94 Access(P7) (second edition) 104pp.	1998-09-14
投票	SGFS	FPDISP12062-1 SC33N195	Information technology -- International Standardized Profiles AMH2n -- Message Handling Systems -- Interpersonal Messaging -- Part 1: IPM MHS Service Support (third edition) 35pp.	1998-09-14
投票	SGFS	FPDISP12062-2 SC33N196	Information technology -- International Standardized Profiles AMH2n -- Message Handling Systems -- Interpersonal Messaging -- Part 2: AMH21 - IPM Content (third edition) 38pp.	1998-09-14
投票	SGFS	FPDISP12062-3 SC33N197	Information technology -- International Standardized Profiles AMH2n -- Message Handling Systems -- Interpersonal Messaging -- Part 3: AMH22-IPM Requirements for Message Transfer(P1) (third edition) 13pp.	1998-09-14
投票	SGFS	FPDISP12062-4 SC33N198	Information technology -- International Standardized Profiles AMH2n -- Message Handling Systems -- Interpersonal Messaging -- Part 4: AMH23 and AMH25-IPM Requirements for MTS Access(P3) and MTS 94 Access(P3) (third edition) 18pp.	1998-09-14

投票/結果	担当/プロジェクトNo.	番号	タイトル	投票期限/結果
投票	SGFS	FPDISP12062-5 SC33N199	Information technology -- International Standardized Profiles AMH2n -- Message Handling Systems -- Interpersonal Messaging -- Part 5: AMH24-IPM Requirements for Enhanced MS Access(P7) (third edition) 25pp.	1998-09-14
投票	SGFS	FPDISP12062-6 SC33N201	Information technology -- International Standardized Profiles AMH2n -- Message Handling Systems -- Interpersonal Messaging -- Part 6: AMH22-IPM Requirements for Enhanced MS 94 Access(P7) (second edition) 62pp.	1998-09-14
投票	SC1/WG6 01.34	FCD2382-34 SC1N2189	Information technology -- Vocabulary -- Part 34: Artificial intelligence -- Neural networks 21pp.	1998-10-28
* 結果	SC1/WG7 01.18	FCD2382-18 SC1N2009	Vocabulary -- Part 18: Distributed Data Processing 17pp.	1997-12-12 SC1N2095: 賛成 10,反対 3, 棄権 0,無回答 6
投票 (2次)	SC1/WG7 01.18	FCD2382-18.2 SC1N2145	Vocabulary -- Part 18: Distributed Data Processing 21pp.	1998-09-15
* 結果	SC1/WG7 01.32	FCD2382-32 SC1N2010	Information technology -- Vocabulary -- Part 32: Electronic Mail 37pp.	1997-12-12 SC1N2096: 賛成 10,反対 2, 棄権 0,無回答 6
投票	SC6/WG2 06.41.01.03	9542/FPDAM3 SC6N10862	Information technology -- Telecommunication and Information Exchange Between Systems -- End System to Intermediate Systems Routeing Exchange Protocol for use in conjunction with the Protocol for Providing the Connectionless-Mode Network Service -- AMENDMENT 3: Addition of Group Composition Information 16pp.	1998-12-10
投票	SC6/WG2 06.41.04.03	10589/FPDAM3 SC6N10864	Information technology -- Telecommunications and information exchange between systems -- Intermediate System to Intermediate Systems Intra-Domain Routeing Information Exchange Protocol for use in conjunction with the Protocol for Providing the Connectionless-Mode Network Service -- AMENDMENT 3: Extensions for group composition and related multicast routing 24pp.	1998-12-10
結果	SC6/WG6 06.57.09.02	FCD15428 SC6N10754	Information technology -- Telecommunications and information exchange between systems -- Private Integrated Services Network -- Specification, functional model and information flows -- Wireless terminal location registration supplementary service and Wireless Terminal Information Exchange additional network feature 32pp.	1998-06-02 SC6N10903: 賛成 10,反対 1, 棄権 0,無回答 6
結果	SC6/WG6 06.57.09.03	FCD15429 SC6N10755	Information technology -- Telecommunications and Information Exchange Between Systems -- PISN -- Inter-exchange signalling protocol -- Wireless terminal Location registration supplementary services 44pp.	1998-06-02 SC6N10904: 賛成 11,反対 0, 棄権 0,無回答 6
結果	SC6/WG6 06.57.09.04	FCD15430 SC6N10756	Information technology -- Telecommunications and Information Exchange Between Systems -- PISN -- Specification, functional model and information flows -- Wireless terminal call handling additional network features 31pp.	1998-06-02 SC6N10905: 賛成 11,反対 0, 棄権 0,無回答 6
結果	SC6/WG6 06.57.09.05	FCD15431 SC6N10757	Information technology -- Telecommunications and information exchange between systems -- PISN -- Inter exchange signalling protocol -- Wireless terminal Call handling additional network features 44pp.	1998-06-02 SC6N10906: 賛成 10,反対 1, 棄権 0,無回答 6
結果	SC6/WG6 06.57.09.06	FCD15432 SC6N10758	Information technology -- Telecommunications and information exchange between systems -- PISN -- Specification, functional model and information flows -- Wireless Terminal authentication supplementary services (WTAN and WTAN) 37pp.	1998-06-02 SC6N10907: 賛成 11,反対 0, 棄権 0,無回答 6
結果	SC6/WG6 06.57.09.07	FCD15433 SC6N10759	Information technology -- Telecommunications and information exchange between systems -- PISN -- Inter-exchange signalling protocol -- Wireless terminal authentication supplementary services 48pp.	1998-06-02 SC6N10908: 賛成 11,反対 0, 棄権 0,無回答 6

投票/結果	担当/プロジェクトNo.	番号	タイトル	投票期限/結果
投票	SC6/WG7 06.41.04	FCD10589 SC6N10917	Information technology -- Telecommunications and information exchange between systems -- Intermediate system to Intermediate systems Intra-Domain Routeing Information Exchange Protocol for use in conjunction with the Protocol for Providing the Connectionless-Mode Network Services (second edition) 132pp.	1998-12-15
* 結果	SC6/WG7 06.73.01	FCD13252 SC6N10680	Information technology -- Telecommunications and Information Exchange Between Systems -- Enhanced Communications Transport Service(ECTS) 43pp.	1997-12-05 SC6N10751: 賛成 12,反対 1, 棄権 0,無回答 4
投票 (2次)	SC7/WG6	FCD9126-1.2 SC7N1949	Information technology -- Software product quality -- Part 1: Quality model 25pp.	1998-10-26
* 結果	SC7/WG6 07.36	FCD14756 SC7N1785	Information technology -- Measurement and rating of performance of computer-based software systems 52pp.	1997-12-28 SC7N1846: 賛成 9,反対 2, 棄権 2,無回答 15
投票	SC7/WG7 07.27	FCD14764 SC7N1959	Information technology -- Software Maintenance 45pp.	1998-11-16
結果	SC7/WG11 07.28.2.1	FCD15475-1 SC7N1852	Information technology -- CDIF Transfer format -- Part 1: General Rules for Syntaxes and Encodings 30pp.	1998-04-28 SC7N1928: 賛成 8,反対 1, 棄権 3,無回答 16
結果	SC7/WG11 07.28.2.2	FCD15475-2 SC7N1853	Information technology -- Software Engineering Data Definition and Interchange -- Transfer Format -- Part 2: Syntax SYNTAX.1 51pp.	1998-04-28 SC7N1929: 賛成 9,反対 0, 棄権 3,無回答 16
結果	SC7/WG11 07.28.2.3	FCD15475-3 SC7N1854	Information technology -- CDIF Transfer format -- Part 3: Encoding ENCODING.1 59pp.	1998-04-28 SC7N1930: 賛成 9,反対 0, 棄権 3,無回答 16
結果	SC7/WG11 07.28.03.40	FCD15476-1 SC7N1855	Information technology -- CDIF Semantic Metamodel -- Part 1: Foundation 35pp.	1998-04-28 SC7N1931: 賛成 9,反対 0, 棄権 3,無回答 16
結果	SC7/WG11 07.28.3.5	FCD15476-2 SC7N1856	Information technology -- CDIF Semantic Metamodel -- Part 2: Common 70pp.	1998-04-28 SC7N1932: 賛成 9,反対 0, 棄権 3,無回答 16
結果	SC7/WG11 07.28.3.8	FCD15476-4 SC7N1857	Information technology -- CDIF Semantic Meta-model -- Part 4: Data Models 173pp.	1998-04-28 SC7N1933: 賛成 9,反対 0, 棄権 3,無回答 16
結果	SC7/WG11 07.28.3.7	FCD15476-5 SC7N1858	Information technology -- CDIF Semantic Metamodel -- Part 5: Data Flow Models 154pp.	1998-04-28 SC7N1934: 賛成 8,反対 0, 棄権 3,無回答 17
投票	SC7/WG11 07.19.03	FCD15909 SC7N1947	Information technology -- High Level Petri Net Standard 42pp.	1998-10-26
投票	SC17 17.8.10	FCD7816-10 SC17N1323	Identification cards -- Integrated circuit(s) cards with contacts -- Part 10: Electronic signals and answer to reset for synchronous cards 12pp.	1998-08-31
結果	SC18/WG9 18.21.02.06	FCD11581-6 JTC1N5167	Information technology -- User-system interfaces and symbols - Icon symbols and functions - Part 6: Action Icons 25pp.	1998-05-25 JTC1N5433: 賛成 15,反対 0, 棄権 2,無回答 11
投票	SC18/WG9	FCD15412 JTC1N5426	Information technology -- Keyboards for Transportable Computers 10pp.	1998-10-02
投票	SC22/WG14 22.20.01	FCD9899 SC22N2795	Information technology -- Programming Languages -- Programming Language C (Revision ISO/IEC 9899:1990) 538pp.	1999-01-08
投票	SC22/WG15 22.16469	FCD16469 SC22N2723R	Information technology -- Portable Operating System Interface (POSIX) - Standardized Application Environment Profile - POSIX Realtime Application Support(AEP) 68pp.	1998-12-16

投票/結果	担当/プロジェクトNo.	番号	タイトル	投票期限/結果
投票	SC22/WG17 22.22.02	FCD13211-2 SC22N2737	Information technology -- Programming Languages -- Prolog -- Part 2: Modules	1998-12-07
結果	SC24/WG6 24.01.07	FCD7942-3 SC24N1793	Information technology -- Computer graphics and image processing -- Graphical Kernel System (GKS) -- Part 3: Audit Trail 37pp.	1998-05-15 SC24N1866: 賛成 10,反対 1, 棄権 1,無回答 8
投票	SC27 27.03.02	FCD9798-2 SC27N2019	Information technology -- Security techniques -- Entity authentication - Part 2: Mechanisms using symmetric encipherment algorithms (second edition) 17pp.	1998-09-28
投票	SC27/WG2 27.04.01	FCD9797-1 SC27N2023	Information technology -- Security techniques -- Message authentication codes (MACs) -- Part 1: Mechanisms using a block cipher 19pp.	1998-10-10
結果	SC27/WG2 27.09.04	FCD10118-4 SC27N1883	Information technology -- Security techniques -- Hash-functions -- Part 4: Hash-functions using modular arithmetic 20pp.	1998-04-14 SC27N1995rev1: 賛成 19,反対 0, 棄権 1,無回答 1
結果	SC27/WG2 27.08.01	FCD14888-1 SC27N1878	Information technology -- Security techniques -- Digital signatures with appendix -- Part 1: General 16pp.	1998-04-16 SC27N1981: 賛成 17,反対 0, 棄権 1,無回答 3
結果	SC27/WG2 27.08.03	FCD14888-3 SC27N1881	Information technology -- Security techniques -- Digital signatures with appendix -- Part 3: Certificate-based mechanisms 37pp.	1998-04-16 SC27N1983: 賛成 16,反対 1, 棄権 0,無回答 4
投票	SC27/WG3 27.16.01	FCD15408-1 SC27N1951	Information technology -- Security techniques -- Evaluation criteria for IT Security -- Part 1: Introduction and general model 62pp.	1998-10-10
投票	SC27/WG3 27.16.02	FCD15408-2 SC27N1952	Information technology -- Security techniques -- Evaluation criteria for IT Security -- Part 2: Security functional requirements 362pp.	1998-10-10
投票	SC27/WG3 27.16.03	FCD15408-3 SC27N1953	Information technology -- Security techniques -- Evaluation criteria for IT Security -- Part 3: Security assurance requirements 226pp.	1998-10-10
投票	SC29/WG1 29.04.03.01	10918-3/FPDAM1 SC29N2654	Information technology -- Digital compression and coding of continuous-tone still images: Extensions, Amendment 1: Provisions to allow registration of new compression types and versions in the SPIFF header 3pp.	1998-11-30
* 結果	SC29/WG1 29.12.01	FCD14495-1 SC29N2136	Information technology -- Lossless and near-lossless compression of continuous-tone still images --Part 1: Baseline 75pp.	1997-12-13 SC29N2369: 賛成 21,反対 0, 棄権 1,無回答 5
投票	SC29/WG11 29.05.02.02.0 5	13818-2/FPDAM5 SC29N2656	Information technology -- Generic coding of moving pictures and associated audio information: Video, AMENDMENT 5: 4:2:2 Profile High Level 7pp.	1998-11-30
投票	SC29/WG11 29.13.01	FCD14496-1 N2601	Information technology -- Very-low bitrate audio-visual coding -- Part 1:Systems 260pp.	1998-09-29
投票	SC29/WG11 29.13.02	FCD14496-2 N2602	Information technology -- Very-low bitrate audio-visual coding -- Part 2: Visual 326pp.	1998-05-29
投票	SC29/WG11 29.13.03	FCD14496-3 N2603	Information technology -- Very-low bitrate audio-visual coding -- Part 3: Audio 1036pp.	1998-09-29
投票	SC29/WG11 29.13.05	FCD14496-5 N2605	Information technology -- Very-low bitrate audio-visual coding -- Part 5: Reference software 11pp.	1998-09-25
投票	SC29/WG11 29.13.06	FCD14496-6 N2606	Information technology -- Very-low bitrate audio-visual coding -- Part 6: DSM-CC Multimedia Information Framework (DMIF) 91pp.	1998-05-29
結果	SC32/WG2	FCD11179-2 SC32N57	Information technology -- Specification and Standardization of data elements -- Part 2: Classifications Concepts for the Identification of Domains 6pp.	1998-06-20 SC32N139: 賛成 8,反対 1, 棄権 3,無回答 3

投票/結果	担当/プロジェクトNo.	番号	タイトル	投票期限/結果
投票	SC32/WG2 21.63	FCD14481 SC32N171	Information technology -- Conceptual Schema Modelling Facilities 40pp.	1998-12-07
投票	SC32/WG5 32.331.04.01	9579/FPDAM1 SC32N106	Information technology -- Remote Database Access for SQL (RDA/SQL) -- Amendment 1: Secure RDA 32pp.	1998-08-26
投票	SC33/WG1	11189/FPDAM1 SC33N202	Information technology -- International Standardized Profile FDI2 - - Directory Data Definitions -- MHS Use of the Directory -- FPDAM 1: Use of 1997 Directory 1p.	1998-09-14
投票	SC33/WG9 21.20.02.03	FCD15437 SC33N188	Information technology -- Enhancements to LOTOS(E-LOTOS) 209pp.	1998-10-03

DIS/DISP/DTR/DAM および FDIS/FDISP/FDAM の承認投票・結果

投票/結果	担当/プロジェクトNo.	番号	タイトル	投票期限/結果
結果	SGFS	DTR10000-1	Information technology -- Framework and Taxonomy of International Standardized profiles -- Part 1: General Principles and Documentation Framework [TR Type: 3] (fourth edition) 21pp.	1998-04-20 JTC1N5309: 賛成 14,反対 0, 棄権 4,無回答 9
結果	SGFS	DTR10000-2	Information technology -- Framework and Taxonomy of International Standardized profiles -- Part 2: Principles and Taxonomy for OSI Profiles [TR Type: 3] (fifth edition) 30pp.	1998-04-20 JTC1N5310: 賛成 15,反対 0, 棄権 4,無回答 8
結果	SGFS	DTR10000-3	Information technology -- Framework and Taxonomy of International Standardized profiles -- Part 3: Principles and Taxonomy for Open System Environment Profiles [TR Type: 3] (fifth edition) 17pp.	1998-04-20 JTC1N5311: 賛成 14,反対 0, 棄権 4,無回答 9
結果	SGFS	DISP12069-6	Information technology -- International Standardized Profiles ADFnn -- Document Filing and Retrieval (DFR) -- Part 6: ADF21 -- Remote Store Management -- Simple Management Profile 13pp.	1997-02-28 賛成 25,反対 0, 棄権 4,無回答 3
投票	SC2/WG2 02.18.10	10646-1/DAM10	Information technology -- Universal Multiple-Octet Coded Character Set (UCS) -- Part 1: Architecture and Basic Multilingual Plane -- AMENDMENT 10: Ethiopic 9pp.	1998-07-28
投票	SC2/WG2 02.18.01.13	10646-1/DAM13	Information technology -- Universal Multiple-Octet Coded Character Set (UCS) -- Part 1: Architecture and Basic Multilingual Plane -- AMENDMENT 13: CJK unified ideographs with supplementary sources 438pp.	1998-09-02
投票	SC2/WG2 02.18.01.16	10646-1/DAM16	Information technology -- Universal Multiple-Octet Coded Character Set (UCS) -- Part 1: Architecture and Basic Multilingual Plane -- AMENDMENT 16: Braille Patterns 7pp.	1998-09-02
投票	SC2/WG2	10646-1/DAM19	Information technology -- Universal Multiple-Octet Coded Character Set (UCS) -- Part 1: Architecture and Basic Multilingual Plane -- AMENDMENT 19: Runic 4pp.	1998-09-16
投票	SC2/WG2 02.18.01.20	10646-1/DAM20	Information technology -- Universal Multiple-Octet Coded Character Set (UCS) -- Part 1: Architecture and Basic Multilingual Plane -- AMENDMENT 20: Ogham 4pp.	1998-09-16
* 結果	SC2/WG3 02.04	DIS8859-4	Information technology -- 8-bit single-byte coded character sets -- Part 4: Latin alphabet No. 4 16pp.	1997-07-06 SC2N2952: 賛成 26,反対 4, 棄権 3,無回答 3
* 結果	SC2/WG3 02.10	DIS8859-10	Information technology -- 8-bit single-byte coded graphic character sets -- Part 10: Latin alphabet No. 6 16pp.	1997-07-06 SC2N2956: 賛成 25,反対 4, 棄権 3,無回答 3
投票	SC6	DTR9577	Information technology -- Protocol Identification in the Network Layer [TR Type: 3] (fourth edition) 25pp.	1998-08-26

投票/結果	担当/プロジェクト No.	番号	タイトル	投票期限/結果
* 結果 (2次)	SC6/WG1	8802-2/DAM6.2	Information technology -- Telecommunications and information exchange between systems -- Local and metropolitan area networks -- Specific requirements -- Part 2: Logical link control -- AMENDMENT 6: Managed Objects Definition for Logical Link Control (LLC) 47pp.	1995-11-30 賛成 25,反対 1, 棄権 2,無回答 2
* 結果	SC6/WG1	8802-2/DAM7	Information technology -- Telecommunications and information exchange between systems -- Local and metropolitan area networks -- Specific requirements -- Part 2: Logical link control -- AMENDMENT 7: Optional toleration of duplicate I-format PDUs 3pp.	1995-11-27 賛成 28,反対 1, 棄権 0,無回答 1
* 結果	SC6/WG1	8802-5/DAM3	Information technology -- Telecommunications and information exchange between systems -- Local and Metropolitan Area Networks -- specific Requirements -- Part 5: Token ring access method and physical layer specifications -- AMENDMENT 3: Maintenance 70pp.	1997-05-30 賛成 28,反対 0, 棄権 1,無回答 2
* 結果	SC6/WG3 06.10.01	DTR15294	Information technology -- Methods for Data Flow control at Synchronous and Asynchronous DTE-DCE Interfaces [TR Type: 3] 7pp.	1998-01-13 JTC1N5185: 賛成 12,反対 0, 棄権 3,無回答 12
* 結果	SC6/WG6 06.57.09.01	DTR15410	Information technology -- Telecommunications and Information Exchange Between Systems -- PISN mobility -- General Principles and service aspects [TR Type: 3] 36pp.	1998-01-29 JTC1N5190: 賛成 12,反対 0, 棄権 3,無回答 12
結果	SC6/WG6	DIS15773	Information technology -- Telecommunications and information exchange between systems -- Broadband Private Integrated Services Network (B-PISN) -- Inter-exchange signalling protocol -- Transit counter additional network feature [Fast Track Procedure proposed by ECMA] 8pp.	1997-10-10 賛成 25,反対 0, 棄権 2,無回答 4
結果	SC6/WG7 06.35.05.08	8073/DAM1	Information technology -- Telecommunications and information exchange between systems -- Open Systems Interconnection -- Protocol for providing the connection-mode transport service -- AMENDMENT 1: Relaxation of class conformance requirements and expedited data service feature negotiation (fourth edition) 3pp.	1997-05-30 賛成 24,反対 0, 棄権 3,無回答 5
投票	SC6/WG7	8348/DAM1	Information technology -- Open Systems Interconnection -- Network Service Definition -- AMENDMENT 1: Addition of the Internet protocol Address format identifier [ITU-T Rec.X.213(1995E)/Amd.1(1997E)]1p.	1998-10-18
結果	SC7/WG6 07.13.02.05	DIS14598-5	Information technology -- Software product Evaluation -- Part 5: Process for evaluators 36pp.	1997-01-19 賛成 25,反対 2, 棄権 1,無回答 4
* 投票	SC7/WG10 07.29.05	DTR15504-5	Information technology -- Software Process Assessment -- Part 5: An Assessment Model And Indicator Guidance [TR Type: 2] 138pp.	1998-05-01 JTC1N5363: 賛成 16,反対 4, 棄権 0,無回答 7
結果	SC7/WG10 07.29.05	DTR15504-5	Information technology -- Software Process Assessment -- Part 5: An Assessment Model And Indicator Guidance [TR Type: 2] 138pp.	1998-05-01 JTC1N5363: 賛成 16,反対 4, 棄権 0,無回答 7
結果	SC11	DIS15780	Information technology -- 8 mm wide magnetic tape cartridge -- Helical scan recording -- AIT-1 format [Fast Track Procedure proposed by ECMA] 109pp.	1997-11-08 賛成 18,反対 0, 棄権 7,無回答 4
投票	SC22	DIS9496	Information technology -- CCITT high level language (CHILL) [ITU-T Rec.Z.200(1996E)] [Fast-track procedure proposed by ITU-T] [Fast Track Procedure proposed by ITU-T] (third edition) 240pp.	1998-11-14
結果	SC22 22.47.03	13719-1/DAM1	Information technology -- Portable Common Tool Environment (PCTE) -- Part 1: Abstract Specification -- AMENDMENT 1: Fine-grain object extensions 17pp.	1997-11-03 賛成 22,反対 0, 棄権 6,無回答 2

投票/結果	担当/プロジェクト No.	番号	タイトル	投票期限/結果
結果	SC22 22.47.03	13719-2/DAM1	Information technology -- Portable Common Tool Environment (PCTE) -- Part 2: C language binding -- AMENDMENT 1: Fine-grain object extensions 2pp.	1997-11-03 賛成 23,反対 0, 棄権 6,無回答 2
結果	SC22 22.47.03	13719-3/DAM1	Information technology -- Portable Common Tool Environment (PCTE) -- Part 3: Ada language binding -- AMENDMENT 1: Fine-grain object extensions 2pp.	1997-11-03 賛成 22,反対 0, 棄権 6,無回答 2
結果	SC22	DIS13719-4	Information technology -- Portable Common Tool Environment (PCTE) -- Part 4: IDL binding (Interface Definition Language) [Fast Track Procedure proposed by ECMA] 84pp.	1997-11-08 賛成 19,反対 0, 棄権 7,無回答 3
* 投票	SC22/WG5 22.02.01.02	DTR15580	Information technology -- Floating-Point Exception Handling [TR Type: 2]	1998-03-25 JTC1N5268: 賛成 11,反対 0, 棄権 3,無回答 13
* 投票	SC22/WG5 22.02.01.04	DTR15581	Information technology -- Enhanced Derived Type Facilities in Fortran [TR Type: 2] 18pp.	1998-03-25 JTC1N5267: 賛成 11,反対 0, 棄権 3,無回答 13
結果	SC22/WG22 22.47.2	13719-1/DAM2	Information technology -- Portable Common Tool Environment (PCTE) -- Part 1: Abstract specification -- Amendment 2: Object-oriented extensions 31pp.	1997-11-03 賛成 22,反対 0, 棄権 6,無回答 2
結果	SC22/WG22 22.47.2	13719-2/DAM2	Information technology -- Portable Common Tool Environment (PCTE) -- Part 2: C programming language binding -- Amendment 2: Object-oriented extensions 7pp.	1997-11-03 賛成 22,反対 0, 棄権 6,無回答 2
結果	SC22/WG22 22.47.2	13719-3/DAM2	Information technology -- Portable Common Tool Environment (PCTE) -- Part 3: Ada programming language binding -- Amendment 2: Object-oriented extensions 11pp.	1997-11-03 賛成 22,反対 0, 棄権 6,無回答 2
投票	SC23	DIS16824	Information technology -- 120 mm DVD rewritable disk (DVD-RAM) [Fast Track Procedure proposed by JISC] 99pp.	1998-10-30
投票	SC23	DIS16825	Information technology -- Case for 120 mm DVD-RAM disks [Fast Track Procedure proposed by JISC] 52pp.	1998-10-31
投票	SC23	DIS16969	Information technology -- Data Interchange on 120 mm Optical Disk using +RW Format -- Capacity: 3,0 Gbytes and 6,0 Gbytes 90pp.	1998-11-21
結果	SC24/WG6 24.11.01	DIS14478-1	Information technology -- Computer graphics and image processing -- Presentation Environments for Multimedia Objects (PREMO) -- Part 1: Fundamentals of PREMO 38pp.	1997-12-28 賛成 21,反対 0, 棄権 5,無回答 3
結果	SC24/WG6 24.11.2	DIS14478-2	Information technology -- Computer graphics and image processing -- Presentation Environments for Multimedia Objects (PREMO) -- Part 2: Foundation component 68pp.	1997-12-28 賛成 21,反対 0, 棄権 5,無回答 3
結果	SC24/WG6 24.11.3	DIS14478-3	Information technology -- Computer graphics and image processing -- Presentation Environments for Multimedia Objects (PREMO) -- Part 3: Multimedia Systems Services 84pp.	1997-12-28 賛成 20,反対 0, 棄権 4,無回答 5
結果	SC24/WG6 24.11.4	DIS14478-4	Information technology -- Computer graphics and image processing -- Presentation Environments for Multimedia Objects (PREMO) -- Part 4: Modelling, rendering, and interaction component 74pp.	1997-12-28 賛成 20,反対 1, 棄権 4,無回答 4
* 結果	SC24/WG6 24.05.28	DIS14772-1	Information technology -- Computer graphics and image processing -- The Virtual Reality Modeling Language -- Part:1 Functional specification and UTF-8 encoding 202pp.	1997-10-12 SC24N1817: 賛成 17,反対 3, 棄権 7,無回答 3

投票/結果	担当/プロジェクトNo.	番号	タイトル	投票期限/結果
* 投票	SC25/WG3 25.03.02.03	DIS14763-1	Information technology -- Implementation and operation of customer premises cabling -- Part 1: Administration 14pp.	1998-06-05 TOR:
投票	SC25/WG3 25.03.01.05-1	DTR14763-2	Information technology -- Implementation and operation of customer premises cabling -- Part 2: Planning and Installation [TR Type: 3] 24pp.	1998-11-28
投票	SC25/WG3 25.03.01.05-2	DTR14763-3	Information technology -- Implementation and operation of customer premises cabling -- Part 3: Testing of optical fibre cabling [TR Type: 3] 8pp.	1998-11-28
投票	SC25/WG4	DIS14165-111	Information technology -- Fibre Channel -- Part 111: Physical and Signaling Interface(FC-PH) [Fast Track Procedure proposed by ANSI] 388pp.	1998-11-14
* 結果	SC27/WG1 27.14.03	DTR13335-3	Information technology -- Security techniques -- Guidelines for the management of IT-Security -- Part 3: Techniques for the management of IT Security [TR Type: 3] 53pp.	1997-10-15 JTC1N5059: 賛成 14,反対 0, 棄権 0,無回答 14
投票	SC29/WG11 29.05.02.01.05	13818-1/DAM5	Information technology -- Generic coding of moving pictures and associated audio information: System -- AMENDMENT 5 [ITU-T Rec. H. 222.0(1996)/Amd.5(1997E)] 5pp.	1998-09-02
* 結果	SC29/WG11	13818-2/DAM1	Information technology -- Coding of Audio, Picture, Multimedia and Hypermedia Information -- Generic coding of moving pictures and associated audio information -- Part 2: Video -- AMENDMENT 1: Registration of Copyright Identifier [ITU-T Rec.H.262(1995E)/Amd.1 (1996E)]	1995-10-15 賛成 26,反対 1, 棄権 1,無回答 1
* 投票	SC29/WG11 29.05.02.05.01	DTR13818-5/ DAM1	Information technology -- Generic coding of moving pictures and associated audio information -- Part 5: Software simulation -- AMENDMENT 1: Advanced Audio Coding (AAC) [TR Type: 3] 270pp.	1998-04-07
投票	SC29/WG11 29.05.02.06.01	13818-6/DAM1	Information technology -- Generic coding of moving pictures and associated audio information -- Part 6: Extensions for Digital Storage Media Command and Control, AMENDMENT 1: Additions to support data broadcasting 4pp.	1998-11-30
* 結果	SC30 30.1	DIS14662	Information technology -- Open-edl reference model 30pp.	1996-10-27 賛成 29,反対 0, 棄権 2,無回答 2
* 投票	SC31	DIS16022	Information technology -- International symbology specification -- Data matrix [Fast-Track Procedure proposed by AIM] [Fast Track Procedure proposed by ANSI] 95pp.	1998-10-09
* 投票	SC31	DIS16023	Information technology -- International symbology specification -- Maxicode [Fast-Track Procedure proposed by AIM] [Fast Track Procedure proposed by ANSI] 44pp.	1998-10-09
* 結果	SC32 21.32.02	9579-2/DAM1	Information technology -- Open Systems Interconnection -- Remote Database Access Part 2: SQL specialization -- AMENDMENT 1 (second edition) 67pp.	1997-02-17 賛成 26,反対 1, 棄権 3,無回答 2
* 投票	SC33	DIS10021-1	Information technology -- Message Handling Systems (MHS) -- Part 1: System and Service Overview 85pp.	1998-03-06
投票	SC33/WG6 21.28.01.02.07	13244/DAM1	Information technology -- Open Distributed Management Architecture: Support using Common Object request Broker Architecture (CORBA) [ITU-T Rec. X.703(199xE)/Draft Amd.1] 8pp.	1998-09-09

IS/ISP/TR 出版

番号	タイトル	発行年月日
ISP10608-5/AMD1 (SGFS)	Information technology -- International Standardized Profile TAnnnn -- Connection-mode Transport Service over Connectionless-mode Network Service -- Part 5: TA1111/TA1121 profiles including subnetwork-dependent requirements for X.25 packet-switched data networks using virtual calls -- AMENDMENT 1: Reference Optional Security Requirements Specific to X.25 Subnetworks -- TA11n1 1p.	1998-07-15

番 号	タ イ ト ル	発行年月日
ISP10608-8 (SGFS)	Information technology -- International Standardized Profile Tannnn -- Connection-mode Transport Service over Connectionless-mode Network Service -- Part 8: Security employing the Network Layer Security Protocol -- Connection-mode with SDT-PDU based protection over X.25 packet switched data networks using virtual calls, for TA1111/TA1121 profiles 13pp.	1998-08-01
ISP10609-9/AMD1 (SGFS)	Information technology -- International Standardized Profiles TB,TC,TD and TE -- Connection-mode Transport Service over connection-mode Network Service -- Part 9: Subnetwork-type dependent requirements for Network Layer, Data Link Layer and Physical Layer concerning permanent access to a packet switched data network using virtual calls -- AMENDMENT 1: Reference Optional Security Requirements -- TB/TC/TD/TEnn 1p.	1998-08-01
ISP10609-16 (SGFS)	Information technology -- International Standardized Profiles TB, TC, TD and TE -- Connection-mode Transport Service over connection-mode Network Service -- Part 16: Security employing the Network Layer Security Protocol -- Connection-mode with No-header, for TB, TC, TD and TE profiles 11pp.	1998-07-01
ISP10609-17 (SGFS)	Information technology -- International Standardized Profiles TB, TC, TD and TE -- Connection-mode Transport Service over connection-mode Network Service -- Part 17: Security employing the Network Layer Security Protocol -- Connection-mode with SDT-PDU based Protection, for TB/TC/TD/TEnn profiles 13pp.	1998-08-17
ISP10613-1/AMD2 (SGFS)	Information technology -- International Standardized Profile RA -- Relaying the Connectionless-mode Network Service -- Part 1: Subnetwork-independent requirements -- AMENDMENT 2: Reference Optional Security Requirements -- RAnn.nn profiles 1p.	1998-07-15
ISP10613-7/AMD2 (SGFS)	Information technology -- International Standardized Profile RA -- Relaying the Connectionless-mode Network Service -- Part 7: PSDN subnetwork-dependent, media-dependent requirements for virtual calls over a permanent access -- AMENDMENT 2: Reference Optional Security Requirements Specific to X.25 Subnetworks -- RAnn.11n1 1p.	1998-06-15
ISP10613-19 (SGFS)	Information technology -- International Standardized Profile RA -- Relaying the Connectionless-mode Network Service -- Part 19: Security employing the Network Layer Security Protocol -- Connectionless-mode, for RAnn.nn profiles 11pp.	1998-08-01
ISP10613-20 (SGFS)	Information technology -- International Standardized Profile RA -- Relaying the Connectionless-mode Network Service -- Part 20: Security employing the Network Layer Security Protocol -- Connection-mode with SDT-PDU based Protection over X.25 packet switched data networks using virtual calls, for RA1111/RA1121 profiles 13pp.	1998-07-01
ISP12069-6 (SGFS)	Information technology -- International Standardized Profiles ADFnn -- Document Filing and Retrieval (DFR) -- Part 6: ADF21 -- Remote Store Management -- Simple Management Profile 16pp.	1998-07-15
ISP15124-1 (SGFS)	Information technology -- International Standardized Profile FOD126 -- Open Document Format: Image Applications -- Enhanced document structure -- Character, raster graphics, and geometric graphics content architecture -- Part 1: Document Application Profile (DAP) 58pp.	1998-07-01
10646-1/AMD5 (SC2)	Information technology -- Universal Multiple-Octet Coded Character Set (UCS) -- Part 1: Architecture and Basic Multilingual Plane -- AMENDMENT 5: Hangul Syllables 191pp.	1998-05-15
10646-1/COR2 (SC2/WG2)	Information technology -- Universal Multiple-Octet Coded Character Set (UCS) -- Part 1: Architecture and Basic Multilingual Plane -- Technical Corrigendum 2 6pp.	1998-07-01
10646-1/AMD11 (SC2/WG2)	Information technology -- Universal Multiple-Octet Coded Character Set (UCS) -- Part 1: Architecture and Basic Multilingual Plane -- AMENDMENT 11: Unified Canadian Aboriginal Syllabics 15pp.	1998-07-15
8859-1 (SC2/WG3)	Information technology -- 8-bit single-byte coded graphic character sets -- Part 1: Latin alphabet No. 1 10pp.	
8859-4 (SC2/WG3)	Information technology -- 8-bit single-byte coded character sets -- Part 4: Latin alphabet No. 4 10pp.	1998-07-01
8859-10 (SC2/WG3)	Information technology -- 8-bit single-byte coded graphic character sets -- Part 10: Latin alphabet No. 6 10pp.	1998-07-01
8802-2 (SC6/WG1)	Information technology -- Telecommunications and information exchange between systems -- Local and metropolitan area networks -- Specific requirements -- Part 2: Logical link control [ANSI/IEEE Std 802.2] (third edition) 239pp.	1998-06-01
15802-5 (SC6/WG1)	Information technology -- Telecommunications and information exchange between systems -- Local and metropolitan area networks -- Common specifications -- Part 5: Remote Media Access Control (MAC) bridging [ANSI/IEEE Std 802.1G] 221pp.	1998-05-15
15773 (SC6/WG6)	Information technology -- Telecommunications and information exchange between systems -- Broadband Private Integrated Services Network (B-PISN) -- Inter-exchange signalling protocol -- Transit counter additional network feature [Fast Track Procedure proposed by ECMA] 9pp.	1998-07-15
14598-5 (SC7/WG6)	Information technology -- Software product Evaluation -- Part 5: Process for evaluators 35pp.	1998-07-01
14131-1 (SC7/WG12)	Information technology -- Software measurement -- functional size measurement -- Part 1: Definition of concepts 6pp.	1998-06-15

番 号	タ イ ト ル	発行年月日
15521 (SC11)	Information technology -- 3,81 mm wide magnetic tape cartridge for information interchange -- Helical scan recording -- DDS-3 format using 125 m length tapes [Fast Track Procedure proposed by JISC] 98pp.	1998-06-01
15757 (SC11)	Information technology -- Data interchange on 8 mm wide magnetic tape cartridge -- Helical scan recording -- DA-2 format [Fast Track Procedure proposed by ECMA] 74pp.	1998-07-15
15780 (SC11)	Information technology -- 8 mm wide magnetic tape cartridge -- Helical scan recording -- AIT-1 format [Fast Track Procedure proposed by ECMA] 100pp.	1998-08-01
13814 (SC22/WG9)	Information technology -- Programming languages -- Generic packages of complex elementary functions for Ada 36pp.	1998-07-01
15898 (SC23)	Information technology -- Data Interchange on 356 mm optical disk cartridges -- WORM, using phase change technology -- Capacity: 14,8 and 25 Gbytes per cartridge [Fast Track Procedure proposed by ECMA] 104pp.	1998-07-15
15486 (SC23/WG1)	Information technology -- Data Interchange on 130 mm optical disk cartridges of type WORM (Write Once Read Many) using irreversible effects -- Capacity: 2,6 Gbytes per cartridge [Fast Track Procedure proposed by ECMA] 117pp.	1998-05-15
14772-1 (SC24/WG6)	Information technology -- Computer graphics and image processing -- The Virtual Reality Modeling Language -- Part:1 Functional specification and UTF-8 encoding 236pp.	1997-12-15
14709-2 (SC25/WG3)	Information technology -- Configuration of Customer Premises Cabling (CPC) for applications -- Part 2: Integrated Services Digital Network (ISDN) primary rate 13pp.	1998-05-01
TR13335-3 (SC27/WG1)	Information technology -- Security techniques -- Guidelines for the management of IT-Security -- Part 3: Techniques for the management of IT Security [TR Type: 3] 47pp.	1998-06-15
10118-3 (SC27/WG2)	Information technology -- Security techniques -- Hash-functions -- Part 3: Dedicated hash-functions 43pp.	1998-06-01
10728/AMD4 (SC32/WG5)	Information technology -- Information Resource Dictionary System (IRDS) Services Interface -- AMENDMENT 4: RPC IDL binding 11pp.	1998-05-01
10021-6/COR1 (SC33/WG1)	Information technology -- Message Handling Systems (MHS) -- Part6: Protocol Specifications -- TECHNICAL CORRIGENDUM 1 1p.	1998-07-01
10021-9/AMD1 (SC33/WG1)	Information technology -- Message Handling Systems (MHS) -- Part 9: Electronic Data Interchange Messaging System -- AMENDMENT 1: Compression extension 3pp.	1998-07-01

< 編集後記 >

今回発行するNewsletter第39号では、取り上げるべき話題が多くいつもより分厚いものになってしまいました。6月初旬に開催されたISO/IEC JTC 1仙台総会は、多くの方の協力により、無事、成功裏に終わり、また、7月には当調査会の第13回総会が開催されました。これらに関連した記事も今号を賑わせています。

< 国際標準活動トピックス > 欄に掲載した棟上会長の投稿と、さらにこの投稿に対する高橋顧問の意見投稿を、同記事の囲み記事にもあるように、当調査会のホームページに掲載します。更に、それを出発点としてホームページ上の『ITSCJの広場』という掲示板で、オープンな意見交換をしていただこうと企画しています。

編集者一同は、ホームページ上での意見交換の成り行きを固唾を飲んで注視しています。紙で読んでもらう本誌での討論が、Webページ上に移り、どのように進展するのか？紙上では実現できない速い進行の討論と、そこから出てくる結論に大きな関心を寄せています。

紙媒体の本誌と電子媒体のインターネットとの融

合を更に一步前進させるものです。活発で有意義な討論になるよう、多数の方の参加をお待ちします。

<http://www.itscj.ipsj.or.jp/jp/plaza.html> へどうぞ。

(M記)

発 行 人

社団法人 情報処理学会
情報規格調査会
広報委員会

〒105-0011 東京都港区芝公園 3-5-8
機械振興会館 308-3

Tel: 03-3431-2808 Fax: 03-3431-6493

standards@itscj.ipsj.or.jp

<http://www.itscj.ipsj.or.jp/>